



おおさか 令和元年度 環境にやさしい 建築表彰作品集

Osaka Environmentally Friendly Architecture Award



Osaka Environmentally Friendly Architecture Award

主催 大阪府・大阪市

協力：(公社)大阪府建築士会、(公財)大阪府都市整備推進センター、
(一財)大阪建築防災センター、(一社)大阪府建築士事務所協会、
(一財)日本建築センター、(一財)日本建築総合試験所、
(一社)不動産協会関西支部、近畿建築確認検査協会

監修：大阪府住宅まちづくり部建築指導室審査指導課
大阪市都市計画局建築指導部建築確認課

発行：大阪府住宅まちづくり部建築指導室審査指導課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)27階
電話 06-6210-9725 FAX 06-6210-9719

このパンフレットは次の団体様のご協力により印刷いただいたものです。
(公社)大阪府建築士会、(公財)大阪府都市整備推進センター、(一財)大阪建築防災センター、(一社)大阪府建築士事務所協会、
(一財)日本建築センター、(一財)日本建築総合試験所、(一社)不動産協会関西支部、近畿建築確認検査協会

発行日：令和2年1月

はじめに

大阪府と大阪市は、温暖化を緩和し快適で住み良いまちをつくるため、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律や、府市それぞれの条例に基づく建築物の環境配慮制度により、建築物の省エネや省CO₂等に取組んでいます。

建築物の環境配慮制度とは、温暖化やヒートアイランド現象の一要因ともなっている建築物に着目し、一定規模以上の建築物の新築・増改築等を行う建築主に対して、省エネルギーをはじめとする総合的な環境配慮レベルの評価と届出を義務付け、環境にやさしい建築物の普及促進を図ろうとするものです。

普及促進の一環として、大阪府の「大阪サステナブル建築賞（大阪建築環境配慮賞）」と、大阪市の「CASBEE大阪OF THE YEAR」を統一した「おおさか環境にやさしい建築賞」により、特に環境配慮に優れた建築物の建築主及び設計者を表彰しています。このことにより、建築主等の環境に対する自主的な取組を促進し、良好な都市環境の確保と、環境にやさしい建築・まちづくりに対する意識の高揚を図っています。

この作品集は、表紙に記載の団体のご協力を得て発行していますが、一般の方、特に建築や設備関係を学ぶ学生などに先進的な環境配慮の取組みを広く知ってもらい、将来に役立てていただくとともに、本パンフレットを通じて建築環境への理解がより深まっていくことを期待しております。

審査・選考

表彰建築物は、大阪府温暖化の防止等に関する条例または大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物で、平成30年度の間に工事完了し、かつ、CASBEE 評価がSあるいはAであるもののうちから、「大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会」、「大阪市建築物環境配慮推進委員会」にて選考されました。



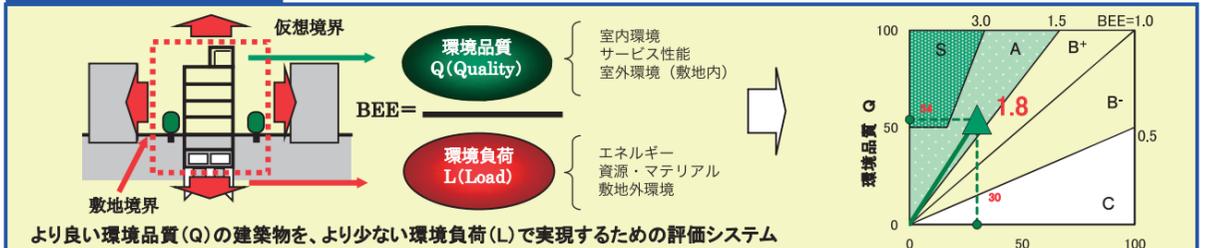
龍見緑地公園：©(公財)大阪観光局

建築環境総合性能評価システム (CASBEE) とは

産官学共同プロジェクトとして開発された、建築物の環境性能を評価し格付けする手法で、省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮だけではなく、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステムです。

(CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)

CASBEE 評価のしくみ



より良い環境品質(Q)の建築物を、より少ない環境負荷(L)で実現するための評価システム

建築物の環境品質 Q (Quality) のスコアを建築物の環境負荷 L (Load) のスコアで除して算出される指標である、建築物の環境性能効率 BEE (Built Environment Efficiency) により、5段階で格付けします。

ランク	評価	BEE 値ほか	ランク表示
S	素晴らしい	3.0以上かつQ=50以上	★★★★★
A	大変良い	1.5以上3.0未満	★★★★
B+	良い	1.0以上1.5未満	★★★
B-	やや劣る	0.5以上1.0未満	★★
C	劣る	0.5未満	★

建築物環境性能表示 (ラベル表示)

CASBEE 評価と重点項目である CO₂ 削減、みどり・ヒートアイランド対策、建物の断熱性、エネルギー削減、太陽光発電その他再生エネルギーの利用や自然エネルギーの直接利用について、建築物の環境性能をわかりやすく示しています。

大阪府建築物環境性能表示

総合評価 ★★★★★

CO₂削減
みどり・ヒートアイランド対策
建物の断熱性
エネルギー削減

太陽光発電
その他再生エネルギー
自然エネルギー
直接利用

例) 大阪府のラベル

再生可能エネルギー利用設備の導入状況
太陽光発電設備などの再生可能エネルギー利用設備が導入されているかどうかを示しています。桜マークの表示があれば、該当設備を備えた環境配慮建築物であることがわかります。

自然エネルギー直接利用
自然通風や昼光利用などにより、自然エネルギーを直接利用しているかどうかを示しています。

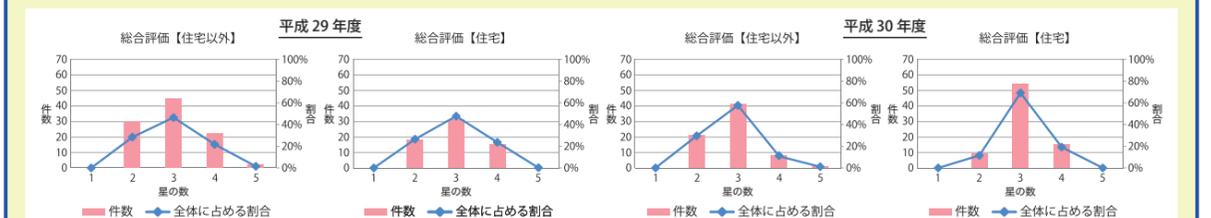
CASBEEの総合評価
CASBEEの評価項目に基づき、環境性能を総合的に評価した結果を示すもので、星マークが多いほど優れています。

重点項目の取組みの評価

CO ₂ 削減	トップライトによる自然採光	高炉セメントの使用	パイロガス施設(メタン発酵槽)
	既存地下躯体の利用	既存建築躯体の継続使用	リサイクル建材の活用
みどり・ヒートアイランド対策	屋上緑化	ウォーターミスト設置	敷地緑化
	Low-e 複層ガラス	ルーバーによる日射遮蔽	エネルギー削減
	高効率給湯器		

届出建築物の総合評価結果の分布状況

届出全体に占めるS(星5つ)またはAランク(星4つ)の割合は、住宅、住宅以外のいずれの用途においても10~30%程度となっています。特にSランクの建築物は届出全体の数%程度と少なく、環境配慮に優れた建築物であるといえます。



※平成29・30年度に大阪府の条例に基づき届出のあった建築物のCASBEE総合評価の結果について、令和元年11月末時点で届出内容の確認が完了しているものを対象として集計

令和元年度おおさか環境にやさしい建築賞 審査講評

【総 評】

大阪府温暖化の防止等に関する条例ならびに大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物のうち、本賞に応募のあったものについて、環境配慮を目的とした建築的計画・工夫における独創性・先進性、調和性・統合性、取組姿勢・効果などについて総合的に審査し、各賞に相応しい建築物を選考した。

言うまでもなく、環境配慮とは、単に高効率で省エネルギー性に優れた設備機器を導入することではなく、敷地内の外構計画も含めて、建築的工夫と設備的工夫の統合により、エネルギーの使用を抑制し、快適で健康的な室内環境と、都市環境や地球環境への負荷削減を両立させることを意味する。

大阪府市における新築建築物のCASBEEの高評価ランク（SやA）の件数自身が減少していることを背景として、候補物件の数は年々減少しているものの、今年に関しては、府市ともにレベルはいずれも高く、多くの優れた環境建築物を表彰することができたと考える。

用途区分では、事務所が5件、病院が2件、集合住宅が2件、工場、集会所がそれぞれ1件受賞したが、惜しくも受賞を逃した建築物も、優れた取組みがなされており、環境配慮への積極的取組みの努力に敬意を表す。

各建築物の具体的な取組みや工夫についてはそれぞれの賞の講評に譲るが、今年は事務所や病院において大規模建築物が多く、大規模ならではの様々な先進的取組みが多く見られた。周辺環境への配慮に関しては、生物多様性への貢献や、環境性と意匠性を高次にバランスさせた建築計画などが見られ、新しい環境建築のあり方が示されたと言える。

今後も、環境性から新しい建築物の価値が創造され、環境にやさしい建築物がより多く建築されることを切に願うものである。

【大阪府知事賞】

国立循環器病研究センター（吹田市）

JR京都線岸辺駅に直結する「北大阪健康医療都市」に位置する医療クラスターの中核施設であり、最先端医療拠点および研究施設としての設備とそれを支える大規模複合建築であるが、環境性能においても業界をリードする多次元高機能施設であると言える。熱負荷的には不利となる南北を軸とする建築でありながら、高性能の外皮や高効率設備機器の採用、自然エネルギーの有効利用等により、高いBEE値を実現している。高度な医療と先端的な研究機能のBCP対策、テクニカルバルコニー・ポイドによる高いメンテナンス性・可変性など、様々な工夫が導入され、まちかど広場や周辺緑地、保水性舗装など、地域の環境向上とまちづくりにも配慮された質の高い環境建築である。まさしく大阪府知事賞に相応しい建築である。

【大阪市長賞】

読売テレビ新社屋（大阪市中央区）

24時間稼働体制をとるテレビ局本社ビルであり、大規模なスタジオを有するなどエネルギー消費の大きい建物用途であるが、熱負荷用途に合わせた冷水の2温度送水による熱源の効率化や、大空間スタジオにおける利用形態（準備時と収録時）に対応した可変空調システム、ハニカム型の日射遮蔽ルーバー等の採用など、積極的に新しい技術開発に取り組み、高い省エネ性能の向上を実現している。

また、建築計画において、上層階と下層階に角度を付けて不規則な形状により、周囲との調和と意匠性を高めるとともに屋上庭園空間を創出し、大阪城を中心とする景観に新たなランドマークを生み出している。

建築主及び設計者の環境負荷を抑えた建物にすることへの積極的な姿勢とともに、地域の賑わいづくりに貢献するという意欲が感じられる優れた環境配慮建築物であり、大阪市長賞に相応しいと判断した。

【住宅部門賞】

(50音順)

グランドメゾン新梅田タワー（大阪市北区）

次世代家庭用燃料電池の全戸設置は、エネルギーの利用効率を高め、環境負荷を低減するために積極的に利用した例として、高く評価できる。

また、住戸内のテレビでエネルギー使用状況を確認できるシステムを導入し、省エネのためのライフスタイルのアドバイスも行うなど、先導的な省エネに関与する取組みを行っている。

外壁の一部に緑化を施し、また、隣接するホールと調和のとれた外壁色とするとともに、外構における緑の連続性など、周辺環境への配慮が感じられる。

入居者のランニングコスト削減と環境配慮の両立を実現しており、住宅建設事業として環境配慮を成立させるモデルの一つを示している。

ザ・パークハウス オイコス 三国ヶ丘（堺市）

本建築の最大の特徴は、周辺環境との調和性や景観に配慮した周辺緑地と、敷地内に設けられた自主管理公園の緑や鳥類を呼び込む巣箱により、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会のいきもの共生事業所®認証（通称：ABINC認証）を獲得している点にある。堺市内の集合住宅で初の家庭用燃料電池全住戸によるCO₂の削減も先進的である。また、低炭素建築物の認定を取得し、高いBEE値を実現した良質な環境配慮住宅と言える。

【事務所部門賞】

(50音順)

近畿産業信用組合本店（大阪市中央区）

外装を重厚感のある石張りをガラススキンが覆う美しいダブルスキンとすることで、断熱性の向上と

ともに意匠性も高めており、環境配慮と北浜の街並みへの景観調和の両立が図られている。

また、冬期においてダブルスキン内の熱を建物内の暖房用に利用する仕組みの構築や、太陽追尾型電動ブラインド・潜顕分離空調などセンサー技術を駆使した制御による先進的な空調システム、執務室内の人検知センサーによる照明最適制御などが導入されている。

18階建ての事務所建築でZEB Readyを達成したことや、建築主のZEB LEADING OWNERへの登録など、積極的なZEBへの取組みは高く評価される。

栗原工業ビル（大阪市北区）

独自開発のスマートエネルギーマネジメントシステム（SEMS）や、ベース照明への直流給電、空気式放射パネルとパーソナル吹出口を組合せたタスク・アンビエント放射空調など、新たな技術を積極的に採用している。特にSEMSは、通常時は蓄電池に蓄えた電力をベース照明に直流のまま給電することで直流・交流変換時の電力ロスを減らし、災害時には電気自動車から建物に給電するなど多種電源によるBCP対応を可能にしている。

電気設備会社の本社ビルとして、災害時も機能を保ち、他の被災した建物等の復旧拠点となることを重視して設計されており、BCP対応と通常時の環境配慮が合致した建物である。

DESCENTE INNOVATION STUDIO COMPLEX（茨木市）

立地を活かした美しい造形の研究施設である。意匠性を犠牲にすることなく、高い省エネルギー性と快適性をバランスさせている点が高く評価される。敷地の3方向が緑豊かな丘陵地で、対向する大窓により執務室内から周辺の緑環境を享受でき、かつ高い環境性能を保ちつつ自然光を上手くとりいれている。スポーツウエアデザインの研究拠点という機能を満足させるための床吹出し空調や、自然換気などに最新の気流制御技術を導入している点も評価できる。

なんばスカイオ（大阪市中央区）

隣接する建物から余剰熱の供給を受けることにより街区全体としてのエネルギー効率を高めるとともに、ハイブリッド非常電源による72時間以上の機能維持を可能とし、災害時の帰宅困難者にも対応できる点は、ターミナル駅に隣接する立地特性を踏まえた取組みとして評価できる。

また、冷房時のオフィスにおいて天井内の非空調の空気を床から吹き出すことで足下の冷気を緩和する手法や、屋内避難階段を明るく緩やかにし、セキュリティカードに活動量計を複合したシステムと併せて、オフィスワークに運動を促進する手法など、他に例を見ない創意工夫がなされており、先進的なオフィス複合ビルとなっている。

【商業施設 その他部門賞】 (50音順)

安満遺跡公園 パークセンター（高槻市）

建物正面の大屋根下の空間に集う市民の姿が印象的な平屋鉄骨造の公園施設である。大屋根と庇が作る日影を吹き抜ける自然風が周辺の緑と調和するとき、美しい景観と環境指向の建築が大きな価値を持つことになる。外観は様々な環境配慮技術と人間工学に基づくデザイン検討により木質でシンプルで力強く美しく、屋内は地産の木材を用いたルーバーやサインなどディテールまで丁寧につくり込まれ、広大な公園のパークセンターにふさわしい佇まいと親しみやすさも有する公共建築である。

GLP 枚方Ⅲ（枚方市）

物流拠点としての信頼性を高める耐震性能（免震装置）や耐久性、断熱性に対する工夫（高断熱サンドイッチパネル等）、大屋根を活かした太陽光発電だけでなく、ランニングコスト削減（大型ファン等）や周辺地域景観への配慮（トラックランプ遮光ルーバー、室外機配置、歩道リフレッシュスポット等）など、設計者とクライアントのノウハウや蓄積が随所にみられる。ドライバーへの配慮まで気配りされた設計が印象的であり、先進的な配慮がなされている。

市立吹田市民病院（吹田市）

給気口を「風の塔」としてモニュメント化し、中規模の病院建築でありながら、大規模クールヒートトレンチによる井水・地中熱活用を取り入れた環境建築である。加えて、設備専用中間階（ISS階）を設けるなど、メンテナンスのしやすさや将来の機器更新も容易にしている。落ち着いた外観、健康広場、まちかど広場、フェンス緑化など街への配慮や、防災拠点としての配慮もなされている高機能で良質な病院建築として高く評価できる。

令和元年度大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会 及び

令和元年度大阪市建築物環境配慮推進委員会 委員名簿 (50音順)

○印は、大阪府委員であり、大阪市委員も兼任

- 阿部 昌樹・大阪市立大学大学院法学研究科 教授
- 永村 一雄・大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授
- 木多 彩子・摂南大学理工学部建築学科 教授
- 鍋島美奈子・大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻（環境創生領域） 教授
- 山中 俊夫・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻（建築工学部門） 教授（委員長）

国立循環器病研究センター

循環器疾患の予防・医療・研究で世界をリードする高機能施設

建物概要

- 所在地：吹田市岸部新町
- 建築主：国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
- 設計者：(基本設計・実施設計監修)
株式会社佐藤総合計画
(実施設計)
株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所・
株式会社日本設計
- 用途：病院・研究所



- 敷地面積：30,585.17㎡
- 建築面積：18,712.10㎡
- 延べ面積：129,756.11㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造、鉄骨造
- 階数：地上10階/地下2階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.2
- 重点評価：CO₂削減4.1/省エネ対策4.4
みどり・ヒートアイランド対策3.5

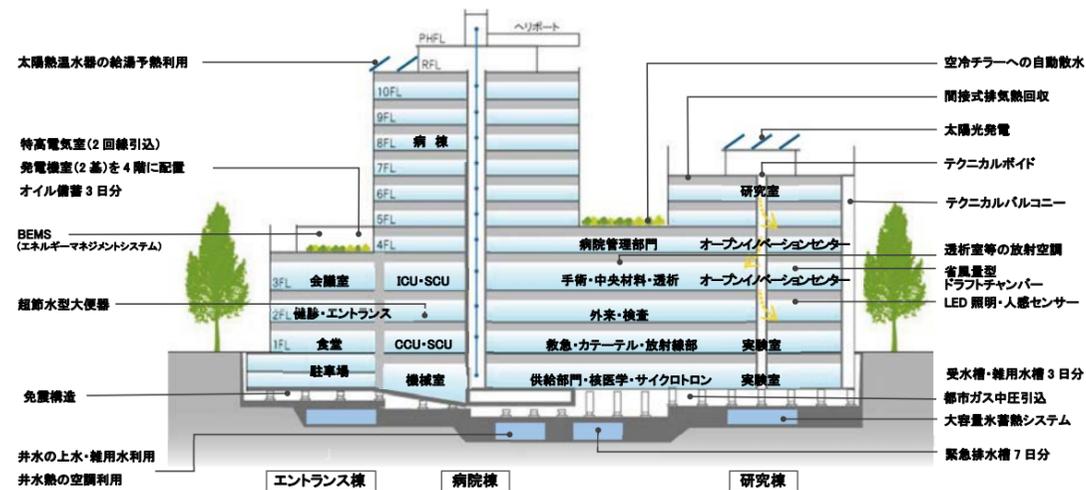
【立地、周辺環境】

JR 京都線岸辺駅に直結した吹田市による鉄道操車跡地再開発地区「北大阪健康医療都市」に位置する。吹田市民病院や医療系企業の施設からなる医療クラスターの中心的な存在であり、全国に6か所ある「ナショナルセンター」のひとつで循環器疾患に特化した550床の病院を持つ国立医療研究所である。北西側に広がる低層の住宅地と隣接した敷地で地域環境の向上を配慮しながら高度な機能が求められる巨大な建築を実現している。

【総合的なコンセプト】

- ① 地域に密着しつつ、ナショナルセンターとしてのミッションである「循環器病の予防と制圧」の拠点を目指す
- ② オープンイノベーションにより最先端医療・医療技術の開発で世界をリード
- ③ オープンイノベーションに連動したエリアの産業活性化による、国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）形成の基本理念のもと、循環器疾患の制圧を旗印に掲げるナショナルセンターとして、病院とオープンイノベーションセンター、研究所が一体連携した次世代の医療・ヘルスケアの実現のため、臨床志向の研究・医療イノベーションの加速を使命とした施設整備を行う

建物断面構成図



環境・ライフサイクルコスト・BCPに配慮した施設計画

環境配慮事項とねらい

自然エネルギーの有効活用とエネルギーの再利用

- 自然光を積極的に取り入れたプランにより省エネと居住環境を向上
- 太陽光発電、太陽熱温水器により、エネルギー使用量を削減
- 水蓄熱用プラインチラーは排熱回収型を採用し、排熱を温水槽に貯留し空調・給湯に利用
- 井水熱を空調熱源として利用し、利用後の水を雑用水としてカスケード利用
- 排気風量が大きい実験室の排気熱回収により外気負荷を低減

日射の抑制による熱負荷低減

- 窓には断熱性の優れた複層ガラスを採用。日射の影響が大きい方角にはLow-e複層ガラスを採用し、空調負荷を削減
- バルコニーの出幅や高さの設定とルーバーにより病室への夏季の日射を抑制

効率の高い設備機器・システムの採用

- 照明器具は全館LED照明化と人感センサーの適宜配置により消費電力を低減
- 空調・給湯熱源には効率の高いターボ冷凍機や空冷テラー、潜熱回収温水器等の採用によるランニングコストを低減
- 大容量水蓄熱システムによる電力のピークカットに加え、低温送水による大温度差送水システムの採用によりポンプの搬送動力を低減
- 空冷テラーは散水機能付機種とし、夏期ピーク時の熱交換効率を高め空調の消費電力を低減
- 施設の性格上、多数設置されるドラフトチャンバーに省風量型を採用、排気風量を低減しファンの消費電力を低減
- 超節水タイプ大便器を採用

エネルギーの見える化

- BEMSを採用し、病院・研究所のエネルギーを監視するとともに、効率的な設備運用を実現

メンテナンス性・可変性の向上

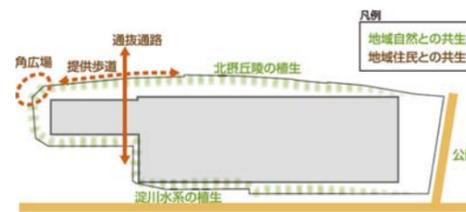
- 外壁塗装材に高耐候低汚染型のフッ素樹脂系の仕上げ材を採用し、更新回数を削減
- 研究所、病棟の廊下等にはシステム天井を採用し、天井内点検修繕の容易化と可変性を向上
- LED照明とノンワックス床材の採用によりメンテナンスを省力化
- 研究室・実験室をテクニカルバルコニー・ボイドに隣接させることで、研究の進化に容易に対応する可変性の確保と日常のメンテナンス性を向上
- 電気のバスダクト採用や外調機のバイパス接続により拡張性・更新性・信頼性を向上

高度医療・先端研究機能のBCPを高める施設計画

- 免震構造とその効果を高める高剛性の構造
- 井水の上水・雑用水利用により災害時の水源を確保
- 信頼性の高い特高2回線引込みと都市ガス中圧引込み
- 自家発電機の複数設置と3日分の燃料備蓄
- 受水槽・雑用水槽は3日分、緊急排水槽は7日分貯留

地域の環境向上・まちづくりへの貢献

- まちかど広場と街路に沿って連続した奥行きと緑視率の高い緑地を配置
- 保水性アスファルト舗装の採用と屋上緑化によるヒートアイランド化の抑制
- 近隣住民の岸辺駅へのアクセスに配慮し、敷地内を通り抜ける歩行者用経路を設け、更に歩行者自転車交通量の多い北側歩道の拡幅のため敷地を提供
- 雨水貯留槽設置と屋上貯留により雨水流出を抑制



地区の緑道や公園と呼应した植栽計画



トップライトで明るいエントランス空間



オープンエンド・光庭による明るい室内環境



日射抑制を考慮した外装計画



可変性向上と採光を兼ねたテクニカルボイド



読売テレビ新社屋

にぎわい・省CO₂・非常時のエネルギー自立を実現する放送施設

建物概要

- 所在地：大阪市中央区城見1丁目
- 建築主：読売テレビ放送株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
- 用途：テレビスタジオ
- 敷地面積：12,495.9㎡
- 建築面積：6,976.39㎡
- 延べ面積：51,193.54㎡
- 構造：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
- 階数：地上17階/地下1階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値4.3
- 重点評価：CO₂削減4.0/省エネ対策4.0
みどり・ヒートアイランド対策5.0



【立地、周辺環境】

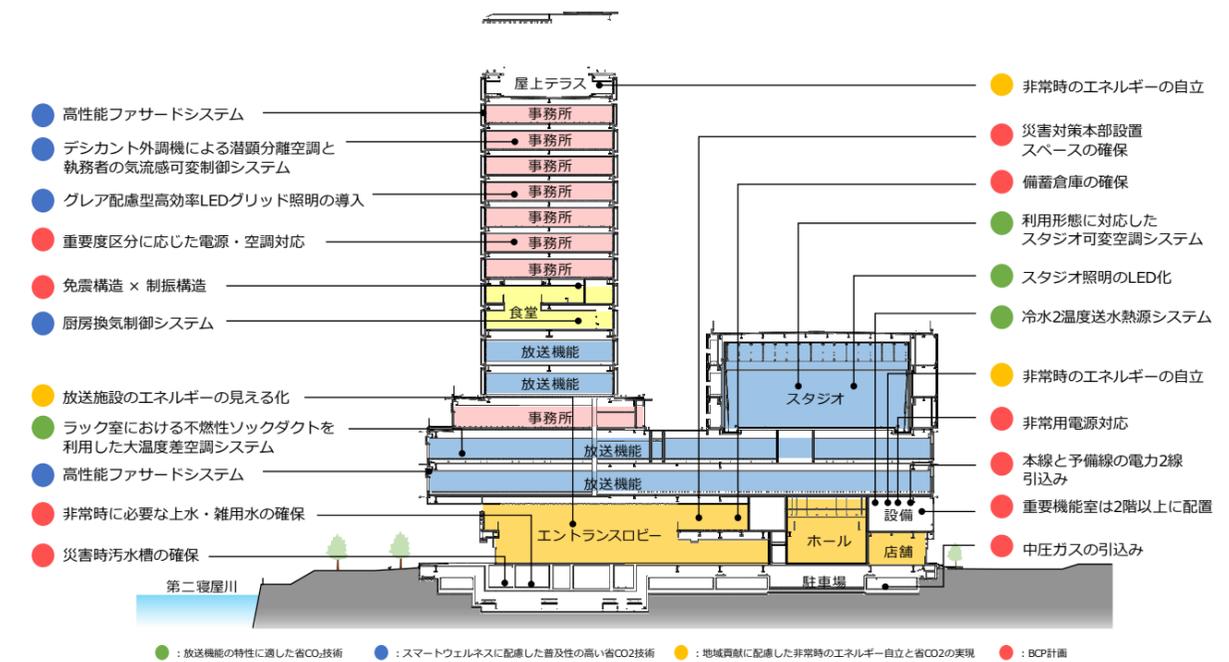
大阪都心東部の拠点形成する大阪ビジネスパーク（OBP）の南西部、眼前に大阪城を望む第二寝屋川沿いに立地する。

【総合的なコンセプト】

「大阪の広場としてのテレビ局=ytv park」をコンセプトに、大阪城公園の豊かな緑、第二寝屋川の水辺環境、OBPの街区とつながり、開かれた場としての建築を目指した。大阪城、第二寝屋川、OBPの軸線に呼応したボリューム構成により様々な屋上庭園を生み出し、大阪城公園と一体となった緑あふれるテレビ局とした。1、2階は地域に開放されたピロティと円形エントランスロビーとし、OBPに賑わいを提供するとともに、放送機能を地上から浮かせることでBCPにも配慮している。

災害時にも放送を継続できるよう、基礎免震と中間階集中制振を組み合わせた免振ハイブリッド構造により、大地震時の安全性を確保している。また放送機能の特性に適した省CO₂技術の導入、事務所のスマートウェルネスに配慮した普及性の高い省CO₂技術の導入を図るとともに、中圧ガス利用のコージェネレーション等によって、非常時のエネルギー自立と地域貢献を図り、次代のテレビ局を目指した。

建物断面構成図

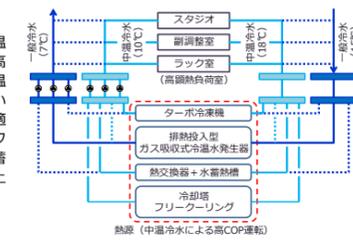


環境配慮事項とねらい

放送機能の特性に適した省CO₂技術

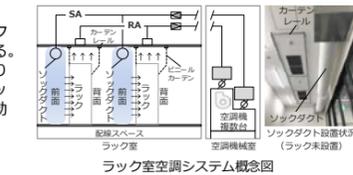
■冷水2温度送水熱源システム

熱負荷用途に合わせて、冷水を2温度送水とすることで、熱源効率を高めたシステムを構築している。中温冷水は、放送機器等の顕熱比の高い用途に適用している。中温冷水の適用に伴い、熱源機器単体のCOP、フリークーリング適用期間の延長や蓄熱効率向上により、熱源効率の向上を図っている。



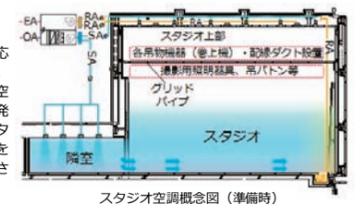
■ラック室における不燃性ソックダクトを利用した大温度差空調システム

無結露、全周から均一な吹出し、省力化が可能な不燃性ソックダクトをラック室空調に採用している。冷水大温度差と変風量制御により搬送動力を低減し、簡易なキャッピングを併用することで、空調効率を高める計画としている。



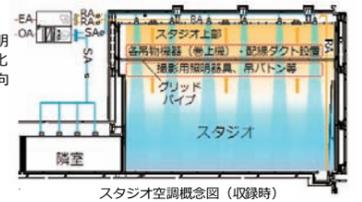
■利用形態に対応したスタジオ可変空調システム

スタジオは、利用形態（収録時：機器発熱大、準備時：機器発熱小）により大きく異なる負荷特性に対応した空調システムを構築している。準備時は、置換空調による居住域空調とし、収録時は、スタジオの高発熱負荷処理空調により、従来のスタジオ空調と比べて効率の高い空調を実現し、省エネルギー性能を向上させている。



■スタジオ照明のLED化

スタジオ照明は、作業灯と演出照明のうちホリゾン照明を全てLED化することで、省エネルギー性能を向上させている。



スマートウェルネスに配慮した普及性の高い省CO₂技術

■眺望の確保と日射遮蔽性能を両立した高性能ファサード

低層、高層ともに階層間に熱負荷抑制可能な形状のPC庇（プレキャストコンクリート）を採用し、建設時の省力化・省資源・省CO₂を図っている。また太陽光追従電動ブラインドを採用し、日射制御を実施している。階高の高い低層は、上部に外部簾+ヘアカラス、下部に高性能Low-Eガラス+電動ブラインドとし、高層は、単層ダブルスキン（普通ガラス+電動ブラインド+高性能Low-Eガラス）とすることで、階高の異なるファサードに対して、眺望と意匠性を確保しながら日射遮蔽性能を確保し、省CO₂性能を向上させている。外部簾はアルミダイキャストで製作し、パラメトリックデザイン設計手法により、意匠性・省資源・遮蔽効果（100%直達日射を防ぐ）の最適化を図っている。

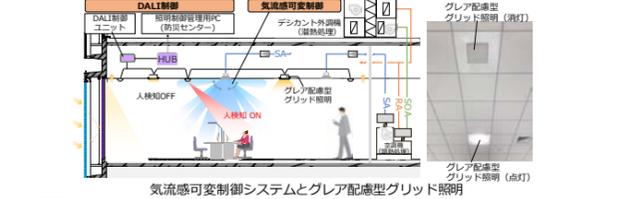


■デシカント外調機による潜熱分離空調と執務者の気流感可変制御システム

デシカント外調機による潜熱処理と空調機による顕熱処理とし、最適な空調システムを構築することで、快適性と省エネルギー性を高めている。また、気流感可変制御により、吹きかけからの風量・温度を変化させることで、執務者に気流感を与え、快適性を高めている。

■グレア配慮型高効率LEDグリッド照明の導入

執務室には、グレア配慮型高効率LEDグリッド照明（140lm/W）を開発導入した。DALI制御とすることで、照明1灯毎に設定が可能となり、レイアウト変更の対応を容易にした。また、人検知・明るさセンサを組み合わせることで、執務者の視線環境への配慮と高い省CO₂性能を実現している。また建物中央部の立体的ボイドにより、自然採光が可能な計画としている。



■厨房換気制御システム

運用時間の長い食堂では、厨房機器の利用状態に応じて、換気量を制御することで、換気・空調エネルギーを削減可能な計画としている。換気の導入外気を空調処理空気と未処理空気に分け、未処理空気は排気経路までショートパスさせることで、外気処理エネルギーを削減している。また、天井面に半円形不燃ソックダクトを設置することで、置換空調が可能な計画としている。換気風量制御と置換空調の組み合わせにより、厨房内の温熱環境を向上すると共に空調効率の向上による省CO₂を図っている。



地域貢献に配慮した非常時のエネルギー自立と省CO₂の実現

■非常時のエネルギーの自立

放送機能継続のための非常用発電機以外に常用発電機として、非常時にも運転可能な中圧ガス利用のコージェネレーションシステム（CGS）を導入している。CGSは、常時はデマンドカットや排熱利用による省CO₂、非常時は、一般部・共用部への電力供給によって帰宅困難者への対応を図ると共に中圧ガス利用による非常時の省CO₂を実現している。

■放送施設のエネルギーの見える化

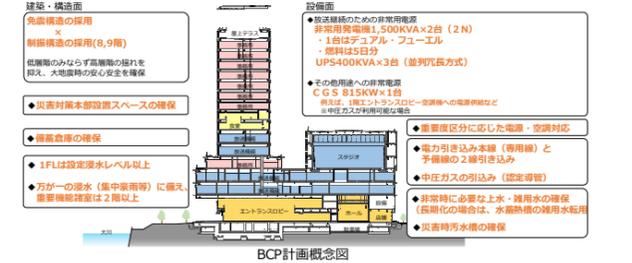
BEMSにより放送施設特有の空用途（スタジオ、副調整室等）でのエネルギー使用状況をデジタルサイネージに表示することで、省エネルギー行動の推進を図っている。また、このデジタルサイネージによる見える化は、非常時には災害情報の表示などの情報提供に活用し地域貢献に寄与できるシステムとしている。



BCP計画

■放送機能継続のためのBCP計画

本建物は、大地震・風・水害などの災害に対して、「軽微な被害」に留まる計画とし、災害直後も放送機能を継続使用可能な建築・設備・構造計画としている。



グランドメゾン新梅田タワー

地域と環境と共生しながら「暮らす」、次世代型タワーマンション

建物概要

- 所在地：大阪市北区大淀南2丁目
- 建築主：積水ハウス株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 用途：共同住宅

- 敷地面積：2,699.65㎡
- 建築面積：1,049.70㎡
- 延べ面積：35,124.77㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造、一部 鉄骨造
- 階数：地上39階
- CASBEE評価：Aランク／BEE値1.7
- 重点評価：CO₂削減4.0／省エネ対策4.0
みどり・ヒートアイランド対策3.0

【立地、周辺環境】

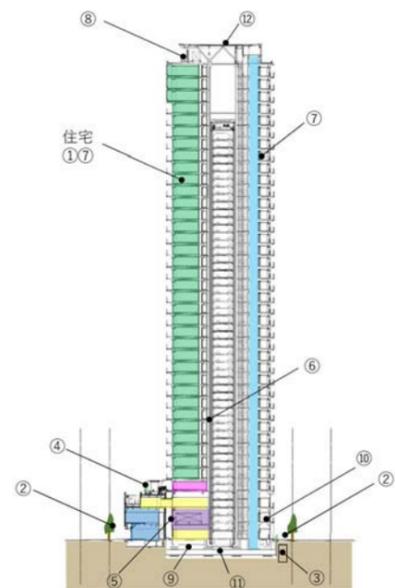
本計画は、うめきた2期区域の西側、JR大阪駅から約1kmの徒歩圏内にある利便性の高い「新梅田エリア」に位置する。新梅田シティを中心に発展した街路樹や既存の公園等、都心とは思えない豊かな緑の潤いに溢れ、シンフォニーホールを中心とする「文化」や、福島界隈の「食・業務」が交わる都心居住に相応しいエリアである。

【総合的なコンセプト】

- ・居住者の快適な生活環境を維持するため、遮音性や断熱性を高めるとともに室内空気環境に配慮した仕様を採用
- ・未来へつながる優れた都心居住ストック形成のため、多様な省エネ・CO₂削減・防災対策を取り入れ、安心・安全なサステナブル住宅、エコライフを実現
- 次世代家庭用燃料電池の全戸採用、「エネルギーの見える化」を実現するシステム導入により省エネ情報を提供・サポート（大阪市内の別の共同住宅と合わせて、国土交通省H27年度第2回サステナブル建築物等先導事業（省CO₂先導型）に採択）
- ・良好な都市環境とグリーンネットワークの形成のため、「5本の樹」計画に基づき、自生種・在来種の樹木を、敷地内・歩道状空地・屋上・壁面に配置



建物断面構成図



- 4~39階の全戸（297戸）に次世代家庭用燃料電池を設置（超高層住宅で世界初^{※1}）
世界最高の発電効率^{※2}の次世代家庭用燃料電池により定格発電を行うとともに、排熱を利用した給湯・湯張り、余剰電力売電により、大幅なCO₂削減効果を実現
- 歩道空間の充実と、都市のグリーンネットワークの形成に寄与する豊かな緑地の整備
敷地四周の歩道状空地（幅4m）と緑地に、自生種・在来種の樹木を選定
- 消防用水槽・雨水貯留槽・ディスプレイ処理槽（外構中に埋設）
防災対策、インフラ負担軽減、生ごみ減量を実現
- 屋上緑化・雨水再利用ユニット（4階）・壁面緑化（1~3階）
立体的に緑地を配置し、4階共用部、街路空間の豊かさを向上。雨水を散水等に再利用
- 受水槽・電気室（2階）洪水等の災害対策として2階以上に配置。非常時の水源・電源確保
- 備蓄倉庫の分散配置（7階毎） 超高層建物の非常時の利便性向上
- 高効率照明（LED）の採用
照明はLED照明を全面的に採用し、省エネとメンテナンス効率を向上
- 停電時対応コージェネレーション設備・非常用発電機・太陽光発電パネル（R階）
エネルギーの高効率利用と非常時に備えた電源多重化を図った
- クールヒートチューブ（地下ピット→1階共用）
温度の安定した地下ピット内に共用部給気ダクトを通すことで、冷暖房空調負荷を低減
- 光ダクト（2階→1階共用）
自然光を建物内に引込み、日中の照明用消費電力を低減
- 基礎免震構造（ピット）
地震エネルギーが直接建物に伝わりにくい免震構造を採用
地震時の人命保護・家具等資産の被害を軽減
- 緊急避難陸揚（R階） 緊急時に備えたヘリポートを設置

※1 超高層（高さ60m超）の分譲マンションにおいて次世代家庭用燃料電池を全戸採用した物件は本件が世界初
※2 定格出力1kW以下の家庭用燃料電池で世界最高の発電効率（※1※2 H28.2/24時点 積水ハウス・大阪ガス調べ）

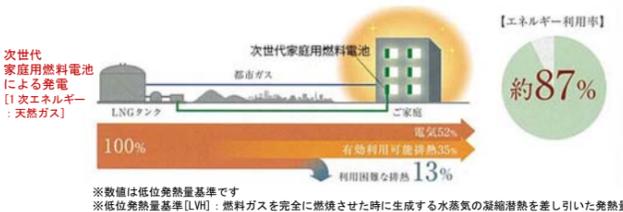
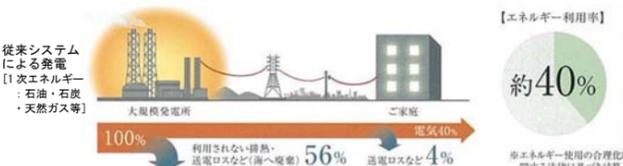
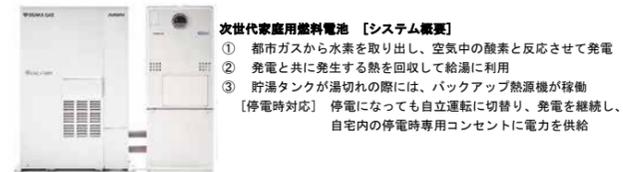
環境配慮事項とねらい

■住戸の取り組み

次世代家庭用燃料電池を297戸全戸に搭載

【省エネ】だけでなく【創エネ】設備を設けることで、普段の暮らしがそのまま環境保全につながり、快適性、経済性、環境配慮に優れた次世代の快適エコライフを提供します。

- ・世界最高の発電効率^{※2}52%の次世代家庭用燃料電池を全戸に設置（超高層住宅で世界初^{※1}）
- ・700Wの24時間定格運転で発電効率を高める
- ・発電した電気は家庭で使用し、余った電気は売電し、省エネ、光熱費削減に貢献
- ・発電所での排熱・送電ロスが無いいため、一次エネルギー利用率は従来システムの約40%→約87%となり、約54%のCO₂排出削減を実現



■共用部の取組み

多彩な省エネ・環境配慮設備



安心・安全・防災対策【環境配慮設備を防災にも利用】

- ・基礎免震構造：人命保護・家具等資産の被害軽減
- ・非常用発電機：停電後、72時間稼働可能（間欠運転）
非常用EV、給水ポンプ、共用部保安灯への電源を供給
- ・停電時かつ都市ガス遮断時対応のコージェネレーション設備
備蓄プロパンガス（24時間分）による集会室の照明・コンセント電源供給
- ・太陽光発電システム、各住戸の家庭用燃料電池を含め、非常時の電源を多重化
- ・防災倉庫を7階毎に分散配置 ・緊急避難陸揚 ・消防用水槽40t

「エネルギーの見える化」を実現

大阪ガス、NTT西日本との共同開発により、誰にでも分かり易く「エネルギーの見える化」を実現するオリジナルシステムを導入
いつでも簡単に自宅のテレビで自宅のエネルギー状況を確認出来ます。過去データ比較や、省エネに関するお役立ち情報を提供し、省エネ活動をサポートします。



子どもを基準に考えた空気環境配慮仕様の採用

【化学物質の抑制】と【換気】の2つの取組みにより、快適な空気環境を実現
5つの化学物質について厚生労働省指針値の1/2以下を目指しました
【化学物質の抑制】：影響を受けやすい子供を基準に、住宅性能の表示義務で定められた5つの化学物質をできるだけ発生させない
建材や接着剤を使用
・使用材料・接着剤は全てF☆☆☆☆に加え、壁下地は軽量鉄骨採用
・コンクリート躯体に面する内壁・居室天井は化学物質吸着石膏ボード使用
・さらに居室天井面に通気性クロスを採用し、家具等の化学物質も吸着
【換気】：24時間換気に加え、天井裏換気を導入し化学物質を積極的に排出



断熱等性能等級4の高レベル断熱仕様

・外気と接する躯体の内側及び屋上スラブ外側に、15~60mmの断熱材を施し、断熱性を高めると共に結露の発生を抑制
・住戸開口部ガラスは全て複層ガラス、コーナー窓にはLow-E複層ガラスを採用
高い遮熱・断熱効果と、外部の自然と一体感のある開放的な大開口を両立



■街の緑のネットワーク形成

外構の植栽計画は積水ハウス「5本の樹」計画に基づいて

【3本は鳥のために、2本は蝶のために】
豊かな生態系を育ててきた里山を手本に、気候風土に適した自生種・在来種を中心とした植栽計画が、積水ハウスの提唱する「5本の樹」計画です。
良好な都市環境とグリーンネットワーク形成のため、自生種・在来種の樹木を中心に、敷地四周の公開空地・屋上（4F）・壁面に立体的に配置。
新梅田シティを起点ににわ筋の沿道の街路樹や上福島北公園へと繋がる緑と共生しながら、都市部の生物多様性と生態系ネットワークの再構築を目指しました。



ザ・パークハウス オイコス 三国ヶ丘

三国ヶ丘に標す、新たな生活環境創造型マンション

建物概要

- 所在地：堺市北区東三国ヶ丘町1丁
- 建築主：三菱地所レジデンス株式会社
株式会社 NIPPO
- 設計者：株式会社長谷工コーポレーション
大阪エンジニアリング事業部
- 用途：共同住宅
- 敷地面積：6,892.42㎡
- 建築面積：2,340.55㎡
- 延べ面積：14,412.81㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造
- 階数：地上11階
- CASBEE 評価：Aランク/BEE値 2.7
- 重点評価：CO₂削減 4.4/省エネ対策 3.8
みどり・ヒートアイランド対策 4.0



【立地、周辺環境】

本計画地は大仙陵古墳で有名な百舌鳥古墳群の北側に位置し、三国ヶ丘駅から徒歩9分。計画地の周辺には大きな公園やまとまった緑地帯があり、環境に恵まれた立地。

【総合的なコンセプト】

「三国ヶ丘に標す、新たな生活環境創造型マンション」をコンセプトに、環境と経済性に配慮し、地域環境と共生した、まちにも居住者にも温かいマンションづくりを目指した。また、「自然と人をつなぐ、ランドスケープデザイン」として、東、南東、南西の三方が道路となる角地の敷地周りには彩り豊かな緑を植樹し、遊歩道も整備するなど潤いのあるランドプランとし、敷地内の安全な通行に配慮、人や車などのアプローチを分離した動線計画を採用。新緑や紅葉による季節の移り変わりを感じることでできる植栽、蝶や鳥が生息しやすい環境づくりに配慮した植樹により、自然と溶け合った暮らしを演出できるような計画した。

建物断面構成図

省エネルギー対策への取り組みとして、セットバック戸や共用空間上部の住戸に関しては特に断熱材を厚く計画することで住戸における「断熱性能等級4」を確保。



配置図



■断熱材仕様

部位	尺例	断熱材	熱伝導率 [W/(m・K)]	材厚 [mm]	備考
屋根	非歩行用	(外断熱) 硬質ウレタンフォーム 保溫板 2種2号	0.024	30	
	歩行用	(外断熱) 硬質ウレタンフォーム 保溫板 3種	0.028	35	
	屋根下	(スラブ下) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	21	※窓型含む
	上階物入れ	(内断熱) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	25	
外壁	壁・柱・梁	(内断熱) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	25	
	窓	(内断熱) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	38	※窓型含む ※下層窓型含む
床	共用部	(外断熱) 吹付け硬質ウレタンフォームB種	0.026	50	
	梁型	(外断熱) 硬質ウレタンフォーム 保溫板 3種	0.028	20	※1階内窓型含む
	床	(スラブ下) 吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.034	21	スラブ下全室
	ビッド	(外断熱) 硬質ウレタンフォーム 保溫板 2種	0.034	20	

環境配慮事項とねらい

周辺緑地について

本計画の周辺には、百舌鳥古墳群をはじめとする、昔から地域に根ざした緑地が点在しており、これらは市街地における貴重な緑であり、堺市の自然環境の大きな特徴でもある。本計画では周辺緑地でみられる植物を選定して取り入れた。



ABINC 認証を獲得

地域の人・自然をつなぐ新たなみどりの拠点として、中百舌鳥古墳群など周辺の豊かなみどりと連動させ地域の生物環境の再生と、新たなみどりの拠点を創出する計画とした。

計画ポイントは以下3つに分類。

1. 計画地周辺に保育所、小・中学校があることから、住民だけでなく地域の子どもたちが自然環境と触れ合える緑地計画とする。
2. 地域の樹木や在来種を積極的に取り入れるなど生物多様性に配慮した緑化計画で、周辺環境と計画地を緑のネットワークでつなぐ。
3. ボリュームのある緑で落ち着きと重厚感のあるエントランスアプローチの演出。

また、地域の子どもたちが自然環境と触れ合える場として、自主管理公園に10m角の緑地空間を設けチョウ類を誘致するクスノキ、ヒラドツツジ等を植栽。止まり木や落ち葉溜め、巣箱を設置することで鳥類を誘致できるような空間も計画した。



低炭素認定を獲得

低炭素認定取得にあたり、以下3点を採用した。

1. 一次エネルギー消費量が省エネ法基準に比べ10%低減
2. 住宅性能劣化対策等級3確保
3. 主要構造部に高炉セメントを採用

これら温熱環境に配慮した取組みのメインピックスとして家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの採用がある。家庭用燃料電池コージェネレーションシステムはクリーンエネルギーである天然ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させることで、電気を生み出す。電気を使う場所で発電するマイホーム発電なら、同時に発生する熱を給湯などに利用することができるため、エネルギーのムダを減らすことができる。居住者にとっては経済効果に優れた先進システムを導入した。



各住戸共用部に家庭用燃料電池コージェネレーションシステム設置

省エネルギー対策への取り組み

住宅設備機能としては、節湯型シャワー水栓、高断熱浴槽等を設けることで設備機器に関しても省エネ性能を確保した。これらの省エネ対策を行ったことにより低炭素認定を各住戸で獲得。人に、環境に優しい集合住宅の計画へと至った。



近畿産業信用組合本店

都市型高層 ZEB を実現した最先端の環境建築

建物概要

- 所在地：大阪市中央区淡路町 2 丁目
- 建築主：近畿産業信用組合
- 設計者：大成建設株式会社
関西支店一級建築士事務所
- 用途：事務所
- 敷地面積：1,134.39 m²
- 建築面積：658.76 m²
- 延べ面積：11,335.38 m²
- 構造：鉄骨造、一部 鉄骨鉄筋コンクリート造
- 階数：地上 18 階 / 地下 1 階
- CASBEE 評価：S ランク / BEE 値 3.0
- 重点評価：CO₂削減 4.0 / 省エネ対策 4.0
みどり・ヒートアイランド対策 3.0



【立地、周辺環境】

敷地である北浜エリアには大阪の目抜き通りである堺筋沿いを中心に、大阪取引所をはじめ金融機関の本店などが密集した「大阪のウォール街」と呼ばれる地域です。これら金融機関の建築には、格式を重んじることから石張りを中心とした重厚でクラシックなデザインが採用されています。この地域には近代建築が重要文化財として多数残されていることから伝統的で落ち着いた町並みを形成しています。

【総合的なコンセプト】

伝統ある北浜エリアに新しい風を吹かすべく、デザインコンセプトを【伝統×革新＝温故創新】と掲げました。落ち着きある伝統を引き継ぎながらも現代的かつ革新的なイメージを重ね合わせることでまったく新しいデザインを目指しました。ダブルスキン外装のガラスに緑などを映し込ませ、周辺環境に優しい建築としています。

建物断面構成図

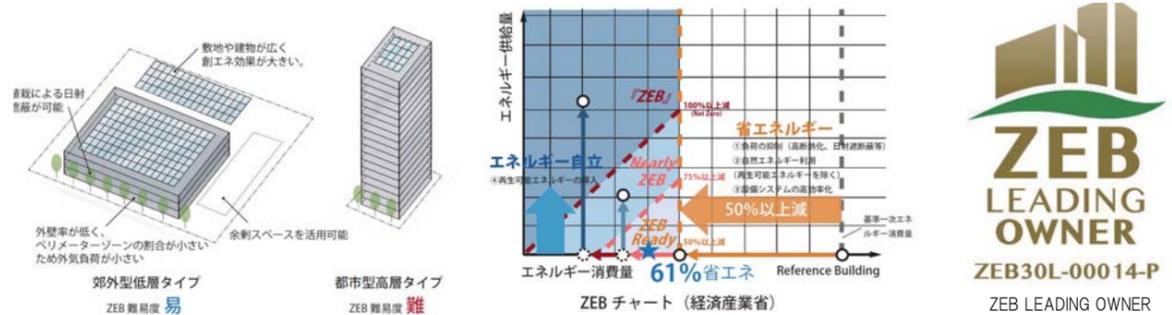
- 事務室他
 - ・高効率 LED 照明器具
 - ・照明昼光制御
 - ・照明初期照度補正
 - ・カスケード換気
 - ・風速センサー付可変多孔型低騒音 VAV
 - ・CO₂センサー+VAV (変風量) 制御
 - ・照明スイッチ+CAV (定風量) 制御
 - ・人検知センサー照明制御
 - ・人検知センサー付天井カセット室内機
- 厨房
 - ・厨房用省エネルギー給排気フード
 - ・厨房ファン INV+CAV (定風量) 制御
- エントランス
 - ・BEMS の見える化モニター
 - ・暖気降下用エアフローファン
 - ・オートノズル空調吹き出し
- 防災センター
 - ・デマンド制御 (照明・空調)
 - ・デマンドお知らせ放送システム
 - ・全熱交換器付換気扇 (全熱交換器、CO₂センサー)

- 屋上
 - ・潜熱分離空調
 - ・外調機 (全熱交換器、顕熱交換器)
 - ・臭気移行防止型イオン交換樹脂吸着剤
 - ・外気冷房制御
 - ・モジュールチラー高効率仕様 (30 馬力、一次ポンプ変流量制御、散水仕様、大温度差 (Δt 7℃) 送水)
 - ・ダブルスキン内熱利用ダンパー、強制排気ファン
 - ・高顕熱ビル用マルチエアコン
 - ・太陽光パネル (系統連系機能、自立運転機能)
 - ・氷蓄熱ビル用マルチ空調
 - ・自然冷媒ヒートポンプ給湯器
 - ・非常用発電機 (48 時間)
- 外装
 - ・ダブルスキン外装 (南面、東面)
 - ・Low-E ペアガラス (#FLG6+FLG6)
 - ・太陽追従電動ブラインド (自動制御)
- ホワイエ (吹抜け空間)
 - ・床吹出空調 (居住域空調)
- 地下
 - ・雨水ろ過装置 (雑用水利用)
 - ・雨水貯留槽
 - ・緊急用排水槽

環境配慮事項とねらい

達成難易度が高い都市型高層 ZEB で 60%以上の省エネを実現

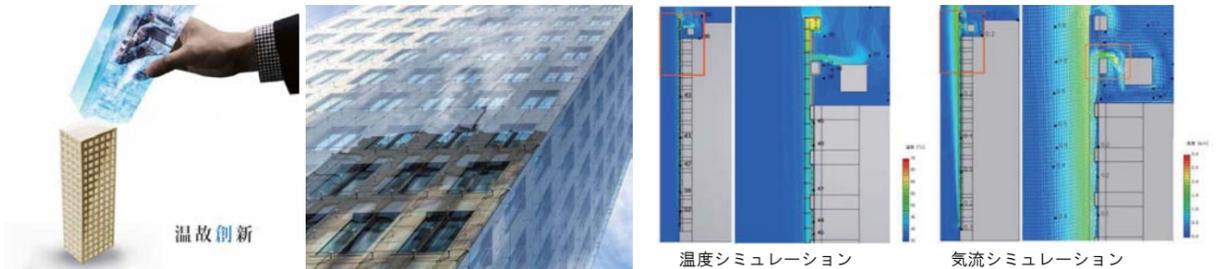
本計画は、様々な省エネ技術を導入することで従来のビルに比べて 60%以上の省エネを実現し ZEB Ready を達成した最先端の環境配慮建築です。従来の ZEB では難易度が高いとされてきた都市型高層タイプで ZEB Ready を実現しました。その結果、発注者は一般社団法人環境共創イニシアチブ (SII) が定める ZEB LEADING OWNER に登録されています。



意匠性と環境性能を兼ね備えた石とガラスによるダブルスキン外装

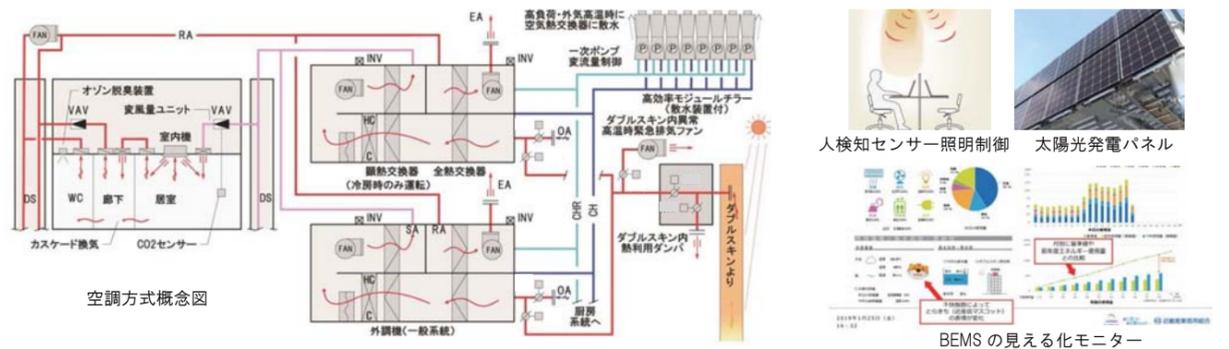
コンセプトを【伝統 × 革新＝温故 創 新】と掲げました。伝統を引き継ぎながらも革新的イメージを重ね合わせるため外装は石張りにガラススキンを纏わせたダブルスキンとしました。意匠性のみならず断熱性能の向上により ZEB 達成に貢献しています。ダブルスキン内には、太陽追従型電動ブラインドを設置し日射遮蔽を行いました。

本計画では温度・気流シミュレーションにより技術検証を行い、国内では類を見ない高さでボイド型ダブルスキンを実現しました。ダブルスキン内の熱利用を行うためダブルスキン内熱利用ダンパーを開発し、主に冬期における外気負荷の低減により省エネルギーを図りました。



最先端の設備技術を導入した環境配慮建築

本計画は潜熱分離空調方式や人検知センサーによる制御技術、BEMS の見える化など最先端の設備技術を多数導入することで、徹底した省エネルギー化を図った環境配慮建築となっています。



栗原工業ビル

100年の歴史を持つ栗原工業の次の100年の「拠点」をつくる

建物概要

- 所在地：大阪市北区南森町1丁目
- 建築主：栗原工業株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 用途：事務所

- 敷地面積：1,159.24㎡
- 建築面積：821.58㎡
- 延べ面積：6,563.82㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上8階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.0
- 重点評価：CO₂削減4.0/省エネ対策4.0
みどり・ヒートアイランド対策3.0

【立地、周辺環境】

国道1号線・阪神高速・天神橋筋の3つの通りに隣接し、大阪メトロ谷町線南森町駅、堺筋線南森町駅、JR東西線大阪天満宮駅から徒歩1分の利便性の高い繁華街に立地している。幹線道路の雑多な街並みの中で、2面接道で視認性の高い立地である。また、計画地は上町断層の直近に位置するため、本社機能としての事業の継続性が強く求められる。

【総合的なコンセプト】

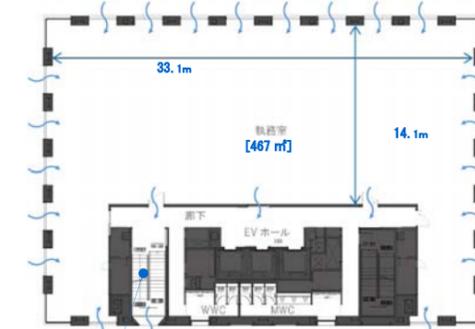
2019年春に会社創立100周年を迎えた栗原工業が、次の100年を見据え、従業員の豊かな想像力を育むことのできる業務環境、地球環境の保全と次世代に引き継ぐべき資源保護のために、継続的に改善のできる環境技術を取り入れた新本社ビルである。本社機能として、事業の継続性と省CO₂両立を主軸とし、免震構造の採用と72時間のBCP性能を確保する計画とした。VPP対応や多種電源によるBCP対応等を可能とする電力制御を備えたスマートエネルギーマネジメントシステムや次世代直流給電システム等の環境配慮技術を採用し、中小規模オフィスビルにおける省CO₂推進の波及・普及を目指している。



環境配慮事項とねらい

フロア面積の最大化による効率的なオフィス空間

- ・外周に扁平柱を採用することで執務空間に柱型のない空間を創出。
- ・全館LED照明とし、ゾーン毎の昼光・人感センサーにより照明制御。
- ・彫の深い格子フレームとアルミの小庇で日射抑制を図りつつ、窓足元に計画した自然換気スリットで8階階段室まで空気が流れる計画としている。

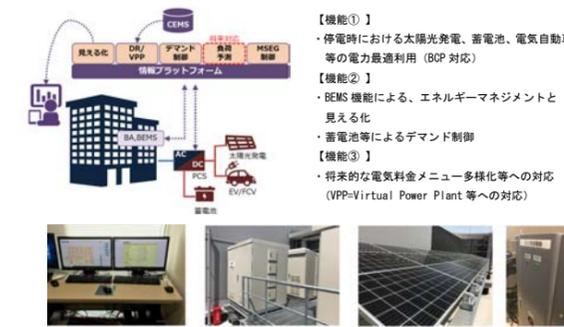


自然換気の風道となる階段室



スマートエネルギーマネジメントシステム

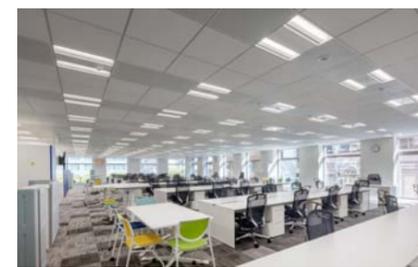
- ・独自開発のスマートエネルギーマネジメントシステムにより、多様な電源を直流で統合・制御し、建物に電力供給。



- 【機能①】
・停電時における太陽光発電、蓄電池、電気自動車等の電力最適利用 (BCP対応)
- 【機能②】
・BEMS機能による、エネルギーマネジメントと見える化
・蓄電池等によるデマンド制御
- 【機能③】
・将来的な電気料金メニュー多様化等への対応 (VPP=Virtual Power Plant等への対応)

ベース照明直流給電

- ・スマートエネルギーマネジメントシステムを用いて、直流電力を直流のまま3階執務室照明器具に給電し「直流→交流→直流」の変換による電力ロスを削減。



執務室ベース照明

「PV→DC/DC→DC/DC→照明器具」の経路で変換ロスを低減

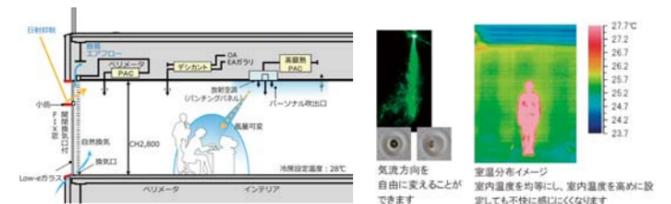
将来にわたって使いやすいコア計画

- ・搬入用EVを常用利用した機能的でコンパクトなコアと外光のはいるWCと階段室を実現。
- ・HWC (2・5・7階)、湯沸室 (2・8階) を設置して、4・6階は将来HWC、湯沸室を計画できるように予備スペースを確保し、継続的な設備更新計画を可能としている。



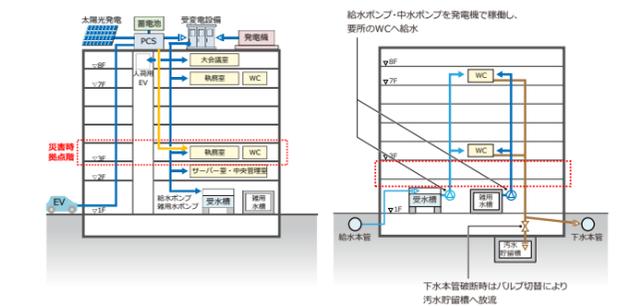
タスク・アンビエント放射空調+パーソナル吹出口

- ・空気式放射パネルとパーソナル吹出口を組み合わせたタスク・アンビエント放射空調により省エネ性と快適性を両立する空調計画。
- ・デシカント外気処理機と高顕熱ビル用マルチエアコンを組み合わせた潜熱分離空調システムを採用。

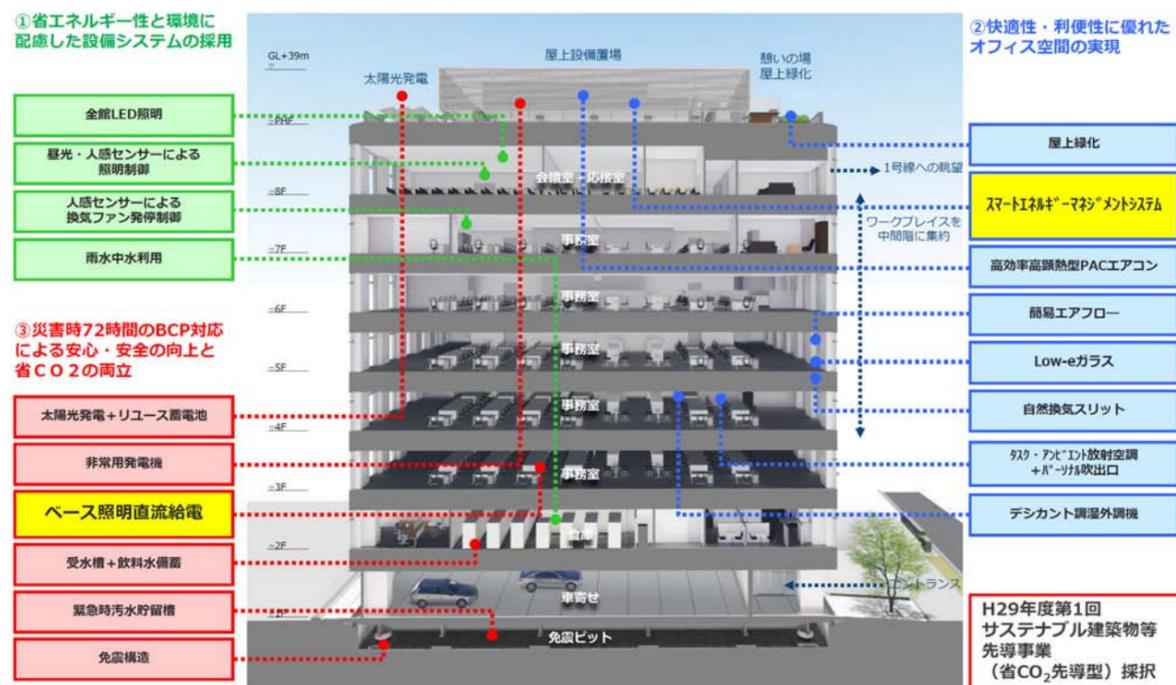


BCP

- ・災害時、インフラの復興基地としての機能維持のため免震構造とし、電源・給排水の72時間のBCP対応を行う。
- ・太陽光発電や電気自動車と組み合わせたリユースリチウムイオン電池により、発電機燃料を使い切った後も直流給電範囲に持続的に給電する。



建物断面構成図



DESCENTE INNOVATION STUDIO COMPLEX

緑の大地に浮かぶ環境を制御する分節屋根

建物概要

- 所在地：茨木市彩都やまぶき 2 丁目
- 建築主：株式会社デサント
- 設計者：株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
- 用途：事務所

- 敷地面積：22,220.28㎡
- 建築面積：3,389.84㎡
- 延べ面積：4,307.46㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上 2 階
- CASBEE 評価：A ランク / BEE 値 1.5
- 重点評価：CO₂削減 3.2 / 省エネ対策 3.6
みどり・ヒートアイランド対策 2.5



【立地、周辺環境】

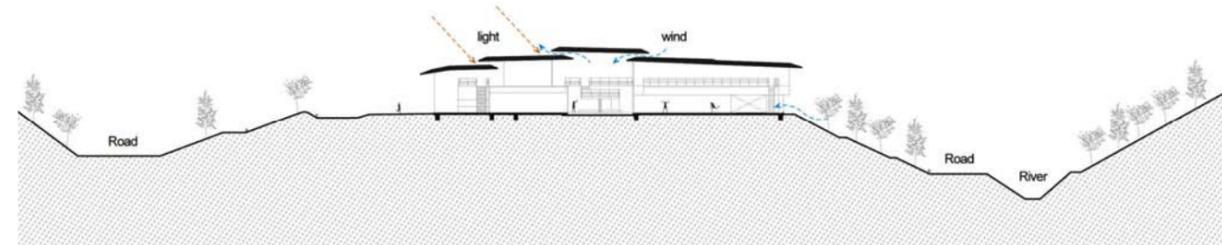
計画地は国際文化公園都市として開発された彩都に位置する。周囲は鉢伏山などの緑豊かな環境に囲まれ、隣地は研究所と集合住宅が建つ周辺環境である。彩都西駅の開業に伴い、宅地開発が行われ、谷状の幹線道路に挟まれた特異な敷地形状である。

【総合的なコンセプト】

宅地造成により切り取られた元々の山なりの地形形状に分節屋根を設け、背景の山並みと呼应したシルエットとすることで、周囲の景観と調和し、スポーツ研究施設らしい躍動感の感じられる建築を目指しました。5枚の分節屋根は日射を制御するだけでなく、ハイサイドライトから光と風を取り込むことで、自然の中で働いているような創造的なワークスペースを創出しました。外部環境は敷地の67%を緑化し、敷地周囲には塀を設けず、低木のみで境界とすることで、誰に対しても開かれた研究所の在り方を追求しました。

建物断面構成図

緑の大地に浮かぶ環境を制御する分節屋根



元々の敷地形状に沿うように配置された分節屋根。谷状の幹線道路に流れるベクトルと、フランス語で「滑降」を意味する企業の未来への力強いベクトルを組み合わせ、「速いものは必ず美しい」というブランドのモノ創りの哲学を表象する建築を目指しました。



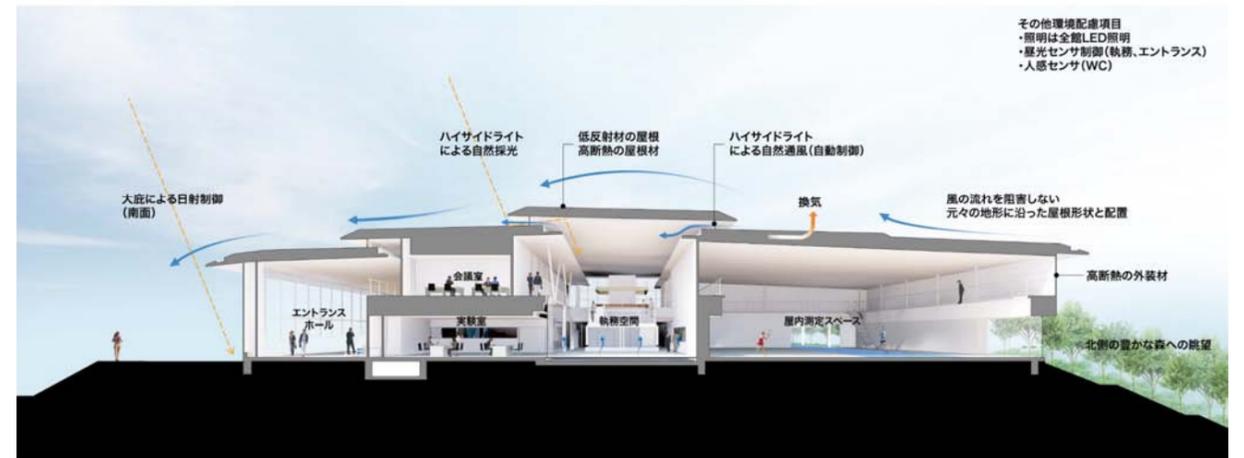
敷地に流れるベクトルと企業のアイデンティティを融合した形状

山並みと呼应したシルエット

層状の機能、屋根の重なり

環境配慮事項とねらい

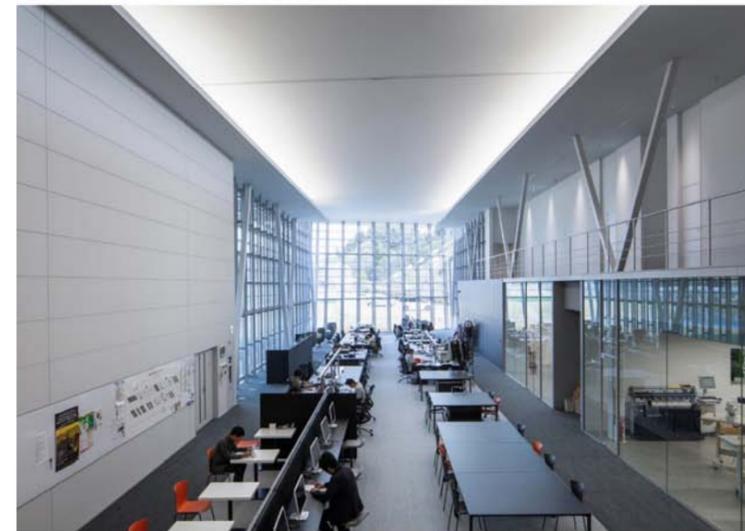
豊かな外部環境を取り込んだ建築計画



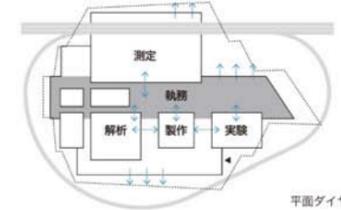
その他環境配慮項目
・照明は全館LED照明
・昼光センサー制御(執務、エントランス)
・人感センサー(WC)

- 敷地外環境
・67%の緑化
・透水性の高い外構仕上げ
- エントランスホール
・南の日射を遮る大庇
・自然採光利用
- 実験室
・外気の影響をうけない
安定した室内環境
- 執務空間
・9.2mの高天井
・床吹き出し空調
・自然採光、タスクアンビエント照明
- 屋内測定スペース
・高断熱の屋根材と外装材(開口部は下部の一部のみ)
・屋外と一体利用可能な非空調設定
・窓と上部からの換気による自然通風

自然の中で働いているような創造的なワークスペース



外部の光と風を取り込んだ天井高さ9.2mの開放的な執務環境



平面ダイヤグラム



庇と横ルーバー

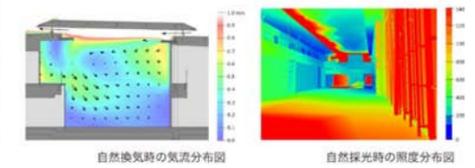
執務空間を中心に、屋内外の測定環境や実験室が取り囲む構成。屋根下の空間は軒の出により日射遮蔽を図り、外部の自然を取り込む大きな開口部は日射の影響をうけにくい方位配置と外壁形状とし、ガラス面には横ルーバーを設けることで、南面以外の開口部はブラインドが必要ないブラインドレスな窓廻りの環境を実現し、外部の豊かな環境を取り込んだ計画としました。



ブラインドレスの北側に大きく開いた執務空間。

熱環境
空調方式は大空間の居住域のみを空調する床吹き出し込み出し空調とし、温度のムラや直接の冷気や暖気を感じない環境としました。ハイサイドライトは、夏季においては上部の熱溜まりを排出し、中間期においては外気を取り入れることで、省エネと快適性を実現する執務環境を目指しました。

光環境
北面の開口部と上部のハイサイドライトにより安定した自然光での必要照度を確保しました。人工照明はハイサイドライト部の屋根の間に配置することで、直接グレアを感じない間接照明による暖かい光に包まれた照明計画としました。人工照明で約300lx、タスク照明により約750lxの照度を確保しました。



自然換気時の気流分布図

自然採光時の照度分布図

なんばスカイオ

街をつなぎ、護り、支える、環境配慮型健康増進オフィス

建物概要

- 所在地：大阪市中央区難波5丁目
- 建築主：南海電気鉄道株式会社
- 設計者：株式会社大林組大阪本店
一級建築士事務所
- 用途：事務所、店舗

- 敷地面積：34,252.02㎡
- 建築面積：3,676.38㎡
- 延べ面積：84,225.00㎡
- 構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造、
鉄骨鉄筋コンクリート造
- 階数：地上31階/地下2階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.5
- 重点評価：CO₂削減4.0/省エネ対策4.0
みどり・ヒートアイランド対策4.0



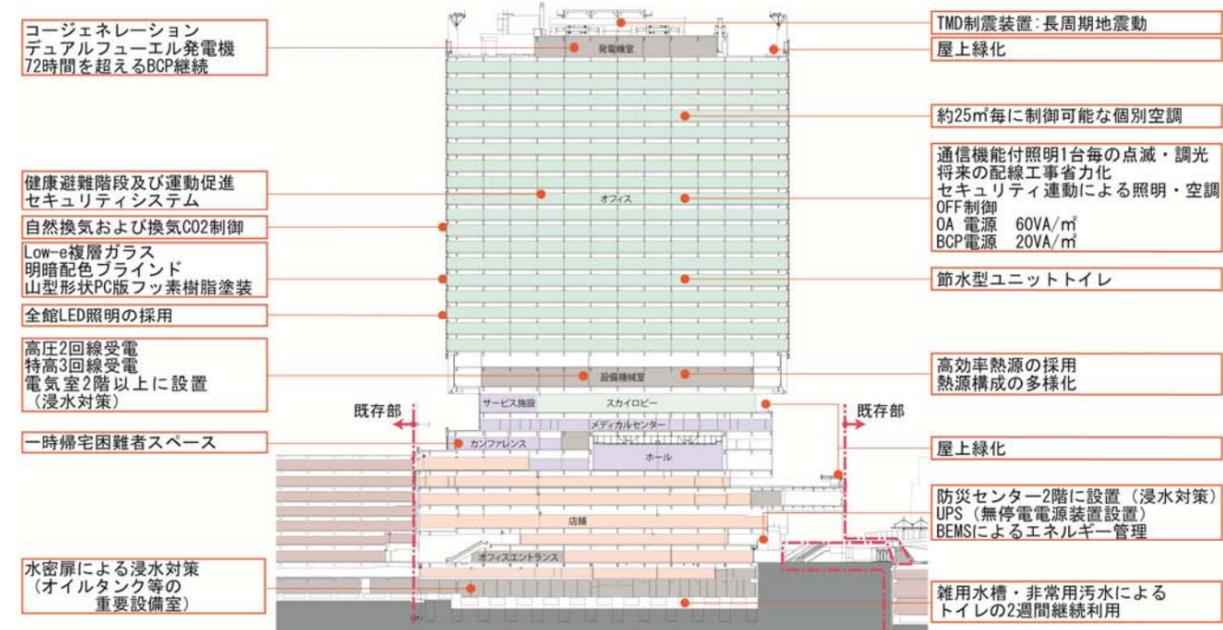
【立地、周辺環境】

南海なんば駅のある南海ターミナルビルの一部。北に御堂筋、南になんばパークスを配し、難波地区の中心で交通、商業、事務所、宿泊施設が複合施設として整備され、まちの結節点となる敷地。

【総合的なコンセプト】

これまで「なんば」に蓄積されてきた都市機能や交通結節点機能などと有機的に結びつき、「なんばの活性化」の起爆剤となり、国際都市を目指すなんば開発の集大成となるプロジェクトとして「世界のNAMB A」をコンセプトとして設計。
街の機能強化を図った、動線、景観、みどりの拡張、エネルギー融通、防災性強化を整備。快適で健康増進に取り組むオフィス環境の整備として、省エネ先進となる新技術を適応した快適性を高めた空調システム、健康増進を促す施設整備、フレキシブルに利用できるオフィス環境を整備。施設の事業継続、安全性を高める高スペックなBCP整備を行う。なんばの街を護り、支える先進オフィス複合ビル。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

+ 「街をつなぎ、緑をつなぎ、人をつなぎ」 既存街区との調和

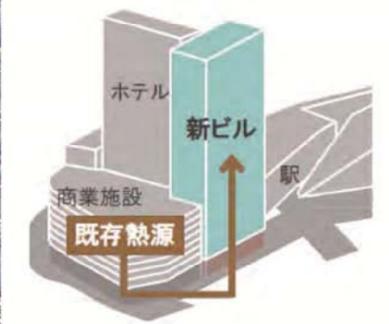
+ 街づくり

敷地内貫通通路の整備により、既存街区と接続し、街の回遊性と利便性を向上。既存街区建物と調和、融合する建物デザインにより良好な景観を形成。既存街区との緑地をつなぎ、みどりのある難波地区を拡張。



+ 冷水熱融通・ターミナルの防災性

平常時は既存ビルの余剰熱を有効利用して、街区全体のエネルギー効率を高める。非常時は、駅に集中する帰宅困難者の受入等、街の防災性を高める機能を新ビル側で整備し、相互に補完し合う。



+ 快適性、健康増進への取り組み

+ オフィス環境・空調システム

きめ細やかな空調制御を可能とする個別空調システムを採用し、インテリアゾーンは約25㎡毎にON/OFFや、温度制御、冷房・暖房切替制御が可能。天井内の温熱の一部を利用して足元の冷えを緩和し、ワーカーの執務環境に配慮。



システム天井対応カセットエアコン



+ ウエルネス・運動促進セキュリティ

オフィス向けにセキュリティカードと活動量計を複合したシステムを構築。ワーカーの消費カロリーや健康情報を測定し、健康データを見える化。明るく開放的な快適避難階段の利用と合わせて運動を促進。

【測る】活動量計付セキュリティカード
1234kcal + Weight
【把握】健康データ見える化
body fat
【実践】快適避難階段
歩きやすい階段勾配
歩きたくなる仕掛け

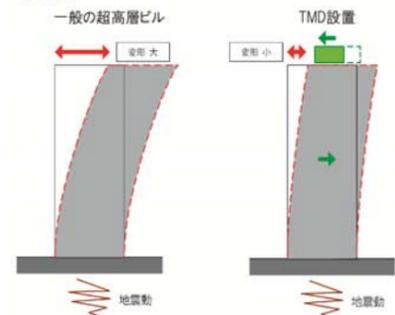
「涼しく、温もりがある」
省CO₂+ウエルネス

快通避難階段

+BCP 取組み

+ 頂部 TMD 制震装置

屋上に TMD (チューンドマスダンパー) 制震装置を設置し、南海トラフ地震などの大地震に備える。大質量 (約 2,600 トン) の錘を用いた TMD の採用により、一般の超高層ビルに比べて地震時の揺れを 75% 程度に低減。また、屋上に設置することにより、執務空間に制振装置を設置することなく耐震性能向上を実現。



+ 停電対策 ハイブリッド非常用電源

オイルタンク+ハイブリッド非常電源により、長時間高いレベルでの機能維持を目指す。都市ガスの供給なしでも3日間分(都市ガスありなら6日間分)の電源維持可能。オフィスでは照明(50%)、空調(50%)、コンセント(20VA/㎡)が使用可能。



安満遺跡公園 パークセンター

世界一美しい『パークセンター』を目指して

建物概要

- 所在地：高槻市八丁畷町
- 建築主：独立行政法人都市再生機構 西日本支社・高槻市
- 設計者：株式会社 INA 新建築研究所 西日本支社
- 用途：その他（体験学習施設）

- 敷地面積：11,463.15㎡
- 建築面積：2,638.41㎡
- 延べ面積：2,468.68㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上1階
- CASBEE 評価：A ランク/BEE 値 1.5
- 重点評価：CO₂削減 3.5/省エネ対策 3.7
みどり・ヒートアイランド対策 3.5



建物の前面の芝生広場より



安満遺跡公園 パークセンター【鳥瞰】



エントランスホール「交流休憩スペース」

【立地、周辺環境】

建設地は南北を鉄道に挟まれた安満遺跡公園内に立地。西側には、市役所や大学施設、商業施設、集合住宅等の高層建物が立ち並び中心市街地、公園周辺は住宅地が隣接し、さらにその奥に自然豊かな山並みを望むことができる。緑豊かな遺跡公園として、生まれ変わりました。

【総合的なコンセプト】

「世界一美しいパークセンター」を目指して高槻市の新しいランドマークにする事を目標に公園整備事業がスタートし、コンセプトは「世界一美しいパークセンター」を目指して作る事でした。誰もが自然と立ち寄りたくなる、広大で緑豊かな公園に相応しい、景観を全て取込む建物としています。建物内外に地域産木材や木質系の素材を壁・床・天井等、数多く採用し、「自然のぬくもり」を感じる空間づくりに配慮しました。この安満遺跡公園 パークセンターに立ち寄る全ての人が笑顔でつろぐことができる、歴史・文化が息づく「人々の活動拠点」となりました。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

市民に愛されつづける「安満遺跡公園とパークセンター」へ

本公園では、つくり込まず、時代やニーズに合わせて変化させていく“ハーフメイド”エリアを設定し、計画段階から将来にわたって、市民とともに育てていく、成長する公園づくりに取り組む。

- 目標像
- 歴史資産の保全・活用
- 地域防災力創造の場
- みどり豊かな景観・環境の創出
- 成熟化社会に向けた公園
- 高槻版市民が育てる公園づくり



1. 環境保全と景観配慮

■ 歴史遺産の保存【環境配慮・遺跡保存】

- ・建設地は弥生時代の環濠集落跡等が国史跡安満遺跡として国から指定。(約12.8ha・平成5年、23年指定)。
- ・遺構面を守るため、公園全体を盛土し歴史遺産の保護・保存を図った。また、遺構面への配慮として建物の床レベルを高くし、基礎・配管ピットを必要最小限に設定した。

■ 周辺環境へ配慮【環境配慮】

- ・北側住宅街への配慮として、南側を正面としたことで騒音・光害対策を行った。また、建物高さを低くし、採光・日影対策を行い、周辺環境へ配慮した。

■ 美しい景観への配慮・景観に溶け込む工夫【景観配慮】

- ・公園エントランスからは綺麗な山並みが望め、周囲に山並みを邪魔する建物もない。雁行した形状と屋根勾配は、山並みと周囲の景観を意識したデザインとした。
- ・建物3面の大型カーテンウォールが、景観を映し込む鏡の役割を果たし、広大な緑・時間や季節の移り変わりを雄大に感じられる空間とした。

■ 建物スケールへのこだわり【大庇・地域産木ルーバー】

- ・人間工学に基づき、人がダイナミックと感じる高さや大きさを検討し、庇の出を最大5.5m、エントランスの天井高5.5m、空間面積500㎡とし、屋根勾配と室内のルーバー勾配を統一させ、内外の一体感を創出させた。

■ 構造美へのこだわり【景観配慮・外観・構造デザイン】

- ・本体建物と屋根付き広場（附属棟）は統一感を出すため、外部から見える柱スパンを全て同じグリッドとし、屋根・軒裏の仕上げや形状・柱の色や大きさ・人工芝等の要素・リズムとバランスを統一。構造的にメンバーも統一し、調和を図った。

■ 照明へのこだわり【LED・調光センサーの導入】

- ・公園の照明計画と連携させ、色温度は外部から見える事務所もすべて3000Kで統一。建物全体に統一感を出し、ぬくもり・華やかさを演出。配光計画は、壁・天井・底面をきっちり発光させる事で建物全体が浮かび上がるような計画とした。
- ・公園と言う立地もあり、建物周囲に邪魔をする光が一切なく、暗闇にきれいに輝く宝石箱のようでも幻想的な建物へ。※防犯対策として、夜間もライトアップ。



大屋根と落ち着いた色調のファサード（夜景）

2. 災害対策

■ 災害時における防災機能

- 本公園の防災機能は、下記の4点とする。
- 広域避難地としての役割
・避難圏域の住民が避難できる避難スペースを確保
- 防災拠点としての役割
・市内の活動場所へのアクセスなどを考慮してボランティア拠点を配置。
- 応急仮設住宅建設地としての役割
・有事の際にはオープンスペースを活用。
- オープンスペースを臨機応変に活用
・広大なスペースがあることから、物資の集積や災害瓦礫の集積所等、その時点に応じ、臨機応変に活用できる場所とする。



出土した農具



アプローチより

3. 高槻市産材の活用

■ 木材で「あたたかな空間づくり」へ

- ・エントランスホール 天井ルーバーや家具等に地域産木材を豊富に取り入れ、手の触れる位置に多く採用し、来館者に木々のぬくもりと親しみやすさを感じられる空間づくりとした。



木のあたたかみを感じるエントランスホール



山並みを意識したスカイライン

GLP 枚方Ⅲ

倉庫で働く人々および地域住民に優しい先進的マルチテナント型物流施設

建物概要

- 所在地：枚方市長尾谷町1丁目
 - 建築主：日本 GLP 株式会社
(枚方3ロジスティック特定目的会社)
 - 設計者：株式会社奥村組西日本支社
一級建築士事務所
 - 用途：倉庫
- 敷地面積：52,076.66㎡
 - 建築面積：24,130.35㎡
 - 延べ面積：116,968.39㎡
 - 構造：高強度プレストレストコンクリート造、一部鉄骨造
 - 階数：地上5階
 - CASBEE 評価：Aランク/BEE値1.6
 - 重点評価：CO₂削減3.8/省エネ対策3.9
みどり・ヒートアイランド対策2.5



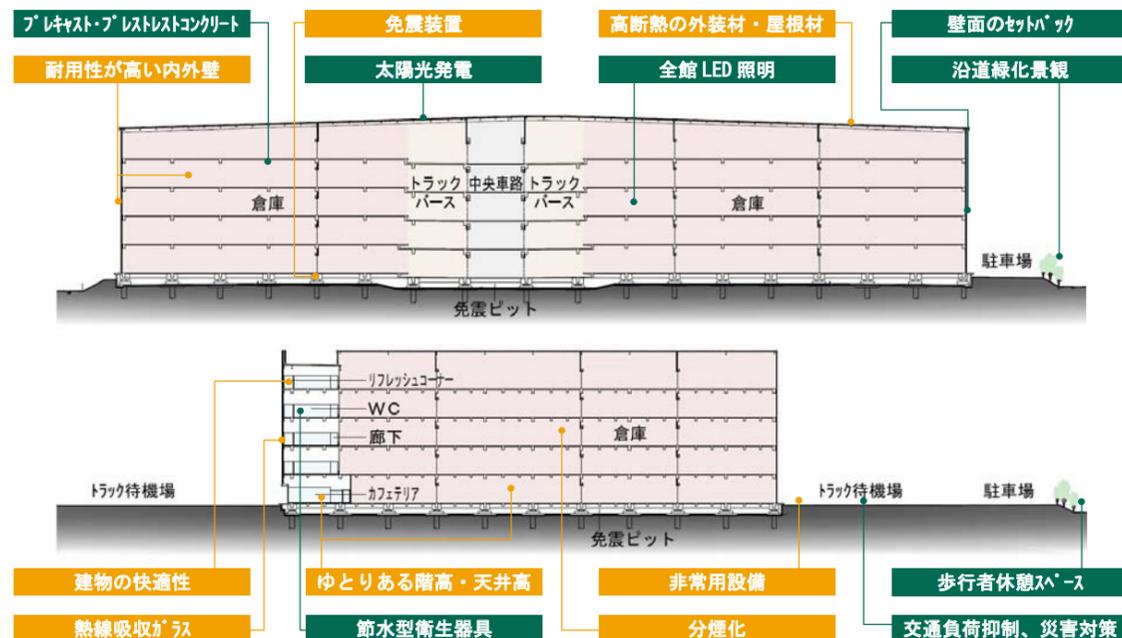
【立地、周辺環境】

枚方市の東部に位置し、第二京阪道路や新名神高速道路、国道1号線といった主要幹線道路からのアクセスに優れ、商業施設、集合住宅や戸建て住宅が広がる郊外住宅地の中にある一団の土地で、昔は「既製団地」と呼ばれ発展してきた区画の一部である。

【総合的なコンセプト】

地域住民と環境に配慮した倉庫で働く人々に優しい施設を目指し、既製団地の一部区画を整理、交差点の改良、道路立体交差解消スロープ設置等インフラ改良を行い、敷地周囲には沿道緑化空間と木陰に歩行者休憩スペースを設け、街区環境の向上に寄与している。建物自体は、外皮の断熱性能を高め、全館にLED照明を採用し、多業種のテナントニーズに応えるべく各階倉庫に大型車両がアプローチできる高床パース等の各種機能を備えている。共用エリアには、カフェテリア、ドライバー控室を備え、敷地内を完全分煙化し、各階にリフレッシュコーナー、喫煙室を分散配置し、倉庫で働く人々の快適性を向上させている。また、時代の変化に対応できるよう、高い階高、乾式間仕切壁を採用し、フレキシブル性を高めていることに加え、倉庫本体、及びランプウェイにもPC・免震構造を採用し、建物の性能と機能を高めることで、安全性・耐用年数の向上を図っている。さらに、太陽光発電設備の設置により環境負荷を低減し、井水の常時利用、非常用発電機による非常時の72時間稼働により事業継続性を高めている。なお、サステナブルな物流施設となるようLEEDにも取り組んでおり、「LEED GOLD」認証を取得している。

建物断面構成図

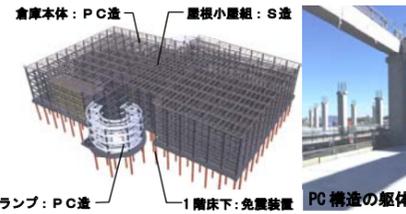


- 建物の快適性
- 熱線吸収がラス
- ゆとりある階高・天井高
- 非常用設備
- 分煙化
- 歩行者休憩スペース
- 交通負荷抑制、災害対策

環境配慮事項とねらい

プレキャスト・プレストレストコンクリート (PC)

- 部材断面を小さくすることで、使用材料を削減
- 工事の合理化及び品質の向上による長寿命化から、LCC02削減に寄与



免震装置

- 計237基の免震装置を設置
- 地震の揺れを抑え建物の損傷を低減し、耐用年数を向上
- 倉庫の荷物を地震から守り、建物の信頼性を向上



建物の快適性

- 以下の空間を設け快適性を向上
 - ・カフェテリア
 - ・外部と一体感のある設え
 - ・リフレッシュコーナー
 - 給湯設備・自動販売機などを併設、24時間利用可能とし、各階に設置
 - ・ドライバー控室



壁面のセットバック、沿道緑化景観

- 道路境界線から壁面をセットバックし、周辺地域への圧迫感を軽減すると共に、緑化景観を創出
- 沿道に木々による緑のゾーンを配置し、敷地内外をゆるやかに繋ぐ見通しの良い木陰空間とすることで、温熱環境及び防犯性を向上



歩行者休憩スペース

- 木陰で談話や待合せなどに利用できる休憩スペースを歩道に面して設置し、地域のアメニティ向上に貢献



交通負荷抑制、災害対策

- トラックの待機場、適切な量の駐車場・駐輪場を確保することで、周辺地域への交通負荷を抑制
- 食糧を備蓄した防災倉庫を設置し、防災ファニチャーを設けたトラック待機場を防災スペースとすることで地域の災害対策に貢献



高断熱の外装材・屋根材、高耐久の内外壁

- 以下の仕様による断熱性能の向上
 - ・外壁: 金属断熱サンドイッチパネル (断熱材t=約50、耐用年数約35年)
 - ・屋根: 二重折版葺 (ガルバリウム鋼板素地、断熱材t=100) 一部アスファルト防水 (外断熱工法)
 - ・内壁: ALC版素地 (耐用年数約40年)



全館 LED 照明

- 全館にLED照明を採用し、トイレ・喫煙室等は人感センサー付きとすることで、省エネルギーに寄与



分煙化

- 敷地内は所定の場所以外を禁煙とし、各階に喫煙室を設け、分煙化することで、適切な空気環境を実現

節水型衛生器具

- 節水型衛生器具の採用により、水資源を保護



ゆとりある階高・天井高

- 階高6.5m、事務室・カフェ等の天井高を2.9m以上とし、二重床及び二重天井とすることで、快適性、将来対応性・更新性を向上



住環境に配慮

- 敷地北側の住宅地に面するランプには、車両前照灯を遮光するルーバーを設置
- 隣接する東側住宅に面する東壁面には、室外機、排気ファンを配さない計画とし、住宅地の音・熱環境に配慮



環境負荷低減

- 屋根面の大部分に約1880kWの太陽光発電設備、地上部にはソーラー街路灯を設置。倉庫内には大型ファンを設け、作業環境を向上させることで環境負荷を低減



非常用設備

- 災害時72時間対応の非常用発電機を設置し、事務室・防災センターの照明等の使用が可能となり、事業継続性が向上
- 非常時に利用可能な井水設備を設置 (通常時はトイレ洗浄水・散水栓に利用)

LEED GOLD 認証取得

- サステナブルな物流施設となるようLEEDに取り組み、「LEED GOLD」認証を取得



「LEED」登録マークは、米国グリーンビルディング協会所有の登録商標マークであり、使用許可を受けたものです。



国立循環器病研究センター



読売テレビ新社屋



グランドメゾン新梅田タワー



ザパークハウス オイコス 三国ヶ丘



近畿産業信用組合本店



栗原工業ビル



DESCENTE INNOVATION STUDIO COMPLEX



なんばスカイオ



安満遺跡公園 パークセンター



GLP 枚方Ⅲ



市立吹田市民病院



平成30年度おおさか環境にやさしい建築賞

知事賞

- 和泉市立総合医療センター
所在地：和泉市和気町4丁目
建築主：和泉市
設計者：清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所

大阪市長賞

- ケイ・オプティコムビル
所在地：大阪市中央区城見2丁目
建築主：関電不動産開発株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

住宅部門賞

- ザ・パークハウス 中之島タワー
所在地：大阪市北区中之島6丁目
建築主：三菱地所レジデンス株式会社、住友商事株式会社、京阪電鉄不動産株式会社、株式会社アサヒプロパティス
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

事務所部門賞

- 吹田市宮新佐竹台住宅
所在地：吹田市佐竹台2丁目
建築主：吹田市、株式会社長谷工コーポレーション
設計者：株式会社長谷工コーポレーション 大阪エンジニアリング事業部、株式会社市浦ハウジング&プランニング

商業施設
その他部門賞

- NTT西日本 新京橋ビル
所在地：大阪市都島区東野田町4丁目
建築主：西日本電信電話株式会社
設計者：株式会社NTT ファシリティーズ
- 大阪重粒子線センター
所在地：大阪市中央区大手前3丁目
建築主：大阪重粒子線施設管理株式会社
設計者：株式会社日建設計
- 岸和田市立福祉総合センター
所在地：岸和田市野田町1丁目
建築主：岸和田市
設計者：株式会社梓設計関西支社
- 四交クリーンセンター
所在地：交野市大字私市
建築主：四條市交野市清掃施設組合
設計者：川崎重工業株式会社 エネルギー・環境プラントカンパニー、株式会社大建設計
- 守口市立寺方南小学校
所在地：守口市寺方元町4丁目
建築主：守口市
設計者：株式会社大建設計
- 守口市立よつば小学校
所在地：守口市大久保町2丁目
建築主：守口市
設計者：株式会社昭和設計

平成29年度おおさか環境にやさしい建築賞

知事賞

- メディカルりんくうポート
所在地：泉佐野市りんくう往来南
建築主：株式会社りんくうメディカルマネジメント
設計者：株式会社日建設計

大阪市長賞

- 大阪工業大学梅田キャンパスOIT梅田タワー
所在地：大阪市北区茶屋町
建築主：学校法人常翔学園
設計者：服部・石本・安井設計監理共同企業体

住宅部門賞

- プレミス北千里クラッシィ
所在地：吹田市藤白台3丁目
建築主：大和ハウス工業株式会社、住友商事株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

事務所部門賞

- コイズミ緑橋ビル
所在地：大阪市東成区東中本2丁目
建築主：小泉産業株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 中之島フェスティバルタワー・ウェスト
所在地：大阪市北区中之島3丁目
建築主：株式会社朝日新聞社、株式会社竹中工務店
設計者：株式会社日建設計

商業施設
その他部門賞

- EXPOCITY（エキスポシティ）
所在地：吹田市千里万博公園
建築主：三井不動産株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 大阪商業大学ユニバーシティ・commons・リアクト
所在地：東大阪市御厨栄町1丁目
建築主：学校法人岡学園
設計者：株式会社久米設計大阪支社
- 大阪府立病院機構大阪国際がんセンター
所在地：大阪市中央区大手前3丁目
建築主：株式会社大阪メディカルサポートPFI
設計者：大阪府立成人病センター整備事業 日本設計・竹中工務店共同企業体
- NIFREL
所在地：吹田市千里万博公園
建築主：三井不動産株式会社、株式会社海遊館
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- プロロジスパーク茨木
所在地：茨木市彩都あかね
建築主：プロロジス（茨木特定目的会社）
設計者：清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所
- 守口市立さつき学園
所在地：守口市春日町
建築主：守口市
設計者：株式会社浦辺設計

平成28年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 知事賞**
- ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター
所在地：摂津市西一津屋
建築主：ダイキン工業株式会社
設計者：日建設計・NTT ファシリティーズ設計共同企業体
- 大阪市長賞**
- 関西電力病院
所在地：大阪市福島区福島2丁目
建築主：関西電力株式会社
設計者：株式会社日建設計
- 住宅部門賞**
- グランロジマン豊中少路
所在地：豊中市少路2丁目
建築主：関電不動産開発株式会社
設計者：株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所
- 事務所部門賞**
- アース環境サービス株式会社 彩都総合研究所 T-CUBE
所在地：茨木市彩都あさぎ
建築主：アース環境サービス株式会社
設計者：大成建設株式会社一級建築士事務所
 - HK 淀屋橋ガーデンアベニュー
所在地：大阪市中央区伏見町4丁目
建築主：積水ハウス株式会社
設計者：株式会社日建設計
 - 北おおさか信用金庫本店
所在地：茨木市西駅前町
建築主：北おおさか信用金庫
設計者：株式会社梓設計
 - 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 大阪事業所 管理実験棟
所在地：大阪市住之江区南港北1丁目
建築主：独立行政法人 製品評価技術基盤機構
設計者：鹿島建設株式会社
- 商業施設その他部門賞**
- 公益財団法人 浅香山病院（一般科）
所在地：堺市堺区今池町3丁目
建築主：公益財団法人 浅香山病院
設計者：株式会社東畑建築事務所
 - イオンモール堺鉄砲町
所在地：堺市堺区鉄砲町
建築主：イオンモール株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
 - 堺市立総合医療センター・堺市消防局救急ワークステーション・堺市こども急病診療センター
所在地：堺市西区家原寺町1丁目
建築主：地方独立行政法人 堺市立病院機構
設計者：株式会社日建設計
 - 市立吹田サッカースタジアム
所在地：吹田市千里万博公園
建築主：スタジアム建設募金団体
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
 - 守口市立樟風中学校
所在地：守口市西郷通3丁目
建築主：守口市
設計者：株式会社石本建築事務所

平成27年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 知事賞**
- ヘルランド総合病院
所在地：堺市中区東山
建築主：社会医療法人 生長会
設計者：清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所
- 大阪市長賞**
- YANMAR FLYING-Y BUILDING
所在地：大阪市北区茶屋町
建築主：セイレイ興産株式会社
設計者：株式会社日建設計
- 住宅部門賞**
- 大阪ひびきの街 サ・サンクタスター
所在地：大阪市西区新町1丁目
建築主：オリックス不動産株式会社、株式会社大京、京阪電鉄不動産株式会社、大和ハウス工業株式会社、大阪ガス都市開発株式会社
設計者：株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所
- 事務所部門賞**
- さかい利晶の社
所在地：堺市堺区宿院町西2丁目
建築主：堺市
設計者：東畑・ダイシン設計共同体
 - 新ダイビル
所在地：大阪市北区堂島浜1丁目
建築主：ダイビル株式会社
設計者：株式会社日建設計
 - 日本生命保険相互会社 東館
所在地：大阪市中央区今橋3丁目
建築主：日本生命保険相互会社
設計者：株式会社日建設計
 - 国立研究開発法人 産業技術総合研究所関西センター C-6棟
所在地：池田市緑丘1丁目
建築主：国立研究開発法人 産業技術総合研究所
設計者：株式会社安井建築設計事務所
 - hu+gMUSEUM（ハグミュージアム）
所在地：大阪市西区千代崎3丁目
建築主：大阪ガス株式会社、大阪ガス都市開発株式会社、株式会社オージスポーツ
設計者：株式会社安井建築設計事務所
 - 三井不動産ロジスティクスパーク堺（MFLP堺）
所在地：堺市堺区築港八幡町
建築主：三井不動産株式会社（堺築港八幡特定目的会社）
設計者：新日鉄住金エンジニアリング株式会社 西日本支社一級建築士事務所

・2006年～2014年までの受賞作品 下記ホームページをご覧ください。

大阪府 環境にやさしい建築賞 バンフレット 検索

http://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_shinsa/casbee_index_html/setubi_osb_osb_estab.html



過去の受賞建築物が掲載されているホームページ

建築物の環境配慮に関する制度紹介



(平成30年4月1日以降に環境配慮制度に関する届出がなされる建築物から適用されるラベル)

建築物環境性能表示制度

分譲マンションや賃貸オフィスなどの募集広告及び工事現場に建物の環境性能を表示する制度です。快適で環境に配慮した建築物が市場で評価される仕組みや広く府民の目にとまることで、建築主の意識を高める仕組みづくりを目指しています。CASBEE評価と重点項目であるCO₂削減、みどり・ヒートアイランド対策、建物の断熱性、エネルギー削減について5段階で表示しております。また、平成30年度からは太陽光発電その他再生エネルギーの利用に加え、自然エネルギーの直接利用についても追加されています。

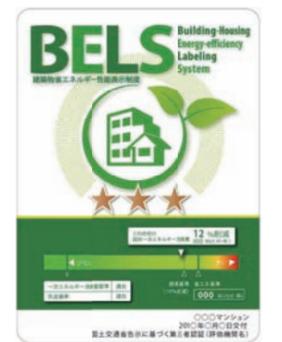


建築物エネルギー消費性能基準 適合認定建築物

「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」に基づき、建築物が省エネ基準に適合している旨の所管行政庁の認定を受け、上記表示をすることができます。また「建築物エネルギー消費性能向上計画」は、省エネ基準を超える誘導基準に適合している旨の所管行政庁による認定を受け、容積率の特例を受けることができます。所管行政庁への認定申請に先立ち、登録建築物調査機関、登録住宅性能評価機関の技術的審査を受けることができます（技術的審査の活用とその範囲については所管行政庁により取り扱いが異なります。）。



非住宅の表示例



住宅の表示例

建築物省エネルギー性能表示制度 (BELS)

(一社)住宅性能評価・表示協会に登録された登録BELS機関が、「建築物のエネルギー消費性能の表示に関する指針」(平成28年国土交通省告示第489号)に基づき、省エネルギー性能に関する評価・表示を行う制度です。

低炭素建築物 認定制度

「都市の低炭素化の促進に関する法律」に基づき、二酸化炭素の排出の抑制に資する建築物を認定する制度です。所管行政庁による「低炭素建築物新築等計画」の認定を受けることで、税制優遇措置や容積率の特例を受けることができます。所管行政庁への低炭素建築物新築等計画の認定申請に先立ち、登録建築物調査機関、登録住宅性能評価機関等の技術的審査を受けることができます（技術的審査の活用とその範囲については所管行政庁により取り扱いが異なります。）。



住宅性能表示制度

「住宅の品質確保の促進等に関する法律」(平成12年4月1日施行)に基づき、良質な住宅を安心して取得できる市場を形成するために作られた制度です。構造耐力、省エネルギー性、遮音性など住宅に必要な性能が、統一されたルールで表示されますので、性能の確認や比較がしやすくなります。評価は国に登録された第三者機関(登録住宅性能評価機関)が行っています。

長期優良住宅 認定制度

「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」に基づき、長期にわたり良好な状態で使用するための措置が、構造及び設備について講じられた優良な住宅を認定する制度です。所管行政庁による「長期優良住宅建築等計画」の認定を受けることで、住宅ローン減税(所得税、個人住民税)、登録免許税、不動産取得税、固定資産税の税制上の優遇を受けることができます。所管行政庁への長期優良住宅建築等計画の認定申請に先立ち、登録住宅性能評価機関の技術的審査を受けることができます（技術的審査の活用とその範囲については所管行政庁により取り扱いが異なります。）。